原町市埋蔵文化財調査報告書第30集

北山横穴墓群発掘調査報告書

2003年３月

福島県原町市教育委員会

原町市埋蔵文化財調査報告書第30集

北山横穴墓群発掘調査報告書

2003年３月

福島県原町市教育委員会

序

文化財は、わが国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民共有の財産であり、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上・発展の基礎をなすものです。とりわけ、地中に埋もれている埋蔵文化財は、文字がまだなかった時代の人々の生活や文化、文字資料だけでは知ることができなかった先人の生活の様子について、私たちに多くの情報を与えてくれます。

近年、原町市内では広範囲にわたるほ場整備事業や大規模開発が予定されるなど地形が大きく変貌しつつあります。その一方、長い歴史を経て保存されてきた埋蔵文化財が一日にして失われてしまう危険性があります。このような状況のなか、教育委員会では、埋蔵文化財の保護のため、開発が行われる前に、遺跡の範囲や性格などの資料を得る目的で、分布調査や試掘調査を実施しております。

開発に際しては、これらの資料をもとに、開発者及び保護関係機関とにおいて遺跡の保存協議を行い、保存が困難な場合については、図面や写真などによる記録保存のための発掘調査を実施しております。

本報告書は、平成13年度に、実施した原町市工業団地発掘調査事業の本調査の成果報告書です。今後この報告書を、埋蔵文化財の保護、地域史研究のために活用していただければ幸いに存じます。

終わりに、地権者の皆様をはじめ、調査にご協力いただきました方々に心から感謝申し上げます。

平成15年３月

原町市教育委員会

教育長　渡　邉　光　雄

例　　言

1．本報告書は、平成13年度に実施した原町市工業団地の本調査報告書である。
　本書は、試掘調査報告である「北山横穴墓群」『原町市内遺跡発掘調査報告書』７に優先する最終報告である。

2．調査は、原町市教育委員会が実施した。

3．発掘調査は、以下の体制で実施した。

調査主体　原町市教育委員会　教育長　鈴木　清身

調査担当　原町市教育委員会事務局文化財課文化財保護係
主査　二本松文雄（旧姓鈴木）

事務局　原町市教育委員会
事務局長　木幡　新一（故人）
事務局理事　渡部紀佐夫
次長兼文化財課長　阿部　敏夫
主幹兼課長補佐　高倉　一夫
係長　堀　耕平
主査　渡辺　芳信
主査　北山　淑英
文化財主事　荒　淑人
発掘調査員　藤木　海
事務補助　小林美枝子

調査補助員　狭川　麻子

発掘補助員　鈴木　令子・門馬　竹子・荒　洋子・鈴木　時江・益山富士子・志賀　愛子・大内スミ子・上野　順子・山本　勝利・金沢　杏子・北内富美恵・上野　謙一・櫻井　操・馬場　君子・木野　孝治

整理補助員　遠藤　和子・古谷　洋子・山本　恵子・新川　幸子

4．発掘調査にあたっては、次の機関及び個人から協力を得た。
高平孝太郎、高平エイ子、新開強志、遠藤昌三、鈴木将武、高平　忠、西　徹雄

5．本報告書の執筆及び編集は、野馬追の里原町市立博物館の二本松文雄が行った。

6．発掘調査、報告書作成にあたり、次の機関及び個人から指導、助言を得ている。
福島県教育庁文化課、玉川一郎（福島県立富岡養護学校）

7．調査で得られた資料は、原町市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．図中の方位は、真北方向を示している。

2．遺構の位置は、平面直角座標の第Ⅸ座標系におけるＸ軸・Ｙ軸で表示している。

3．水糸レベルは、海抜高度を示している。

4．土層断面図の土層は、自然堆積土の基本層位をローマ数字のⅠ・Ⅱ・Ⅲで、遺構内堆積土を算用数字の１・２・３で表示した。

5．土層断面図の地山は、網掛けで図示した。

6．掲載した遺構遺物実測図の縮尺率は、各挿図の右下に記載し、スケールを付した。

7．遺物の断面黒ベタは須恵器、それ以外は白抜きで図示した。また、土師器の内面黒色処理は薄い網掛け、羽口の鉄滓着部分は濃い網掛けで図示した。

目　　次

序文 …… i
例言 …… ii
凡例 …… iii
目次 …… iv
挿図目次 …… v
写真図版目次 …… vi

第１章　調査に至る経過 …… 1

第２章　遺跡の環境 …… 1
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境と周辺の遺跡 …… 3

第３章　遺跡の概要 …… 8

第４章　調査の方法と調査経過 …… 10
　第１節　現地踏査 …… 10
　第２節　試掘調査 …… 10
　第３節　本調査 …… 13

第５章　調査成果 …… 16
　第１節　遺構と遺物 …… 16
　　１号横穴墓 …… 16
　　２号横穴墓 …… 16
　　２号横穴墓と３号横穴墓の間の副室 …… 17
　　３号横穴墓 …… 17
　　３号横穴墓と４号横穴墓の間の副室 …… 18
　　４号横穴墓 …… 18
　　５号横穴墓 …… 32
　　６号横穴墓 …… 32
　　７号横穴墓 …… 37
　　８号横穴墓 …… 40
　第２節　まとめ …… 46
報告書抄録 …… 69

挿図・表目次

図1　原町地域の地質図 …… 2
図2　原町市主要遺跡分布図 …… 5
図3　遺跡位置図 …… 9
図4　北山横穴墓群　地形図 …… 11
図5　北山横穴墓群　遺構配置図（1） …… 12
図6　北山横穴墓群　遺構配置図（2） …… 14
図7　北山横穴墓群　遺構配置図（3） …… 15
図8　1号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 19
図9　1号横穴墓　土層断面図（2）・玄室平面図 …… 20
図10　1号横穴墓　玄室天井部の工具痕拓影図 …… 21
図11　1号横穴墓　玄室奥壁の線刻拓影図 …… 21
図12　1・2・3号横穴墓出土遺物実測図 …… 22
図13　2・3・4・5・6号横穴墓　平面図・土層断面図 …… 23
図14　2号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 25
図15　2号横穴墓　土層断面図（2）・玄室平面図 …… 26
図16　3号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 27
図17　3号横穴墓　土層断面図（2）・玄室平面図 …… 28
図18　4号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 29
図19　4号横穴墓　土層断面図（2）・玄室平面図 …… 30
図20　4・6号横穴墓出土遺物実測図 …… 31
図21　5号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 33
図22　5号横穴墓　土層断面図（2） …… 34
図23　6号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 35
図24　6号横穴墓　土層断面図（2）・玄室平面図 …… 36
図25　7号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 38
図26　7号横穴墓　土層断面図（2）・玄室平面図 …… 39
図27　8号横穴墓　平面図・土層断面図（1） …… 41
図28　8号横穴墓　土層断面図（2）・玄室平面図 …… 42
図29　8号横穴墓出土遺物実測図 …… 43
図30　8号横穴墓出土遺物（古銭）拓影図 …… 44

表1　北山横穴墓群出土土器観察表 …… 45
表2　北山横穴墓群出土石製品観察表 …… 45
表3　北山横穴墓群出土羽口観察表 …… 45
表4　北山横穴墓群出土古銭観察表 …… 45

写真図版目次

写真1　北山横穴墓群航空写真……　49
写真2　1号横穴墓　調査前……　50
写真3　1号横穴墓　伐木・刈払後……　50
写真4　1号横穴墓　実測作業……　50
写真5　1号横穴墓　玄門部……　50
写真6　1号横穴墓　玄門部左側の副室　50
写真7　1号横穴墓　羨道部土層断面…　50
写真8　1号横穴墓　玄室……　50
写真9　1号横穴墓　玄室床面……　50
写真10　1号横穴墓　玄室……　51
写真11　1号横穴墓　拓本作業……　51
写真12　1号横穴墓　奥壁の線刻……　51
写真13　1号横穴墓　西床面……51
写真14　1号横穴墓　東床面……　51
写真15　1号横穴墓　西側壁、後世の小穴　51
写真16　1号横穴墓　天井部、工具痕…　51
写真17　2号横穴墓　伐採・刈払後……　52
写真18　2号横穴墓　羨道部土層断面…　52
写真19　2号横穴墓　羨道部土層断面…　52
写真20　2号横穴墓　全景……　52
写真21　2号横穴墓　玄門部……　52
写真22　2号横穴墓　玄室開口直後……　52
写真23　2号横穴墓　土師器甕出土状況　52
写真24　2号横穴墓　玄室精査後……　52
写真25　2号横穴墓　奥壁……　53
写真26　2号横穴墓　剥落した天井部…　53
写真27　2号横穴墓　玄室……　53
写真28　2号横穴墓　西床面……　53
写真29　2号横穴墓西側壁と奥壁の工具痕　53
写真30　2号横穴墓と3号横穴墓の間の副室　53
写真31　2号横穴墓　副室……　53
写真32　3号横穴墓　伐木・刈払作業…　54
写真33　3号横穴墓　伐木・刈払後……　54
写真34　3号横穴墓　羨道部土層断面…　54
写真35　3号横穴墓　横瓶出土状況……　54
写真36　3号横穴墓　副室　木炭出土状況　54
写真37　3号横穴墓　焼土出土状況……　54
写真38　3号横穴墓　焼土出土状況……　54
写真39　3号横穴墓　全景……　54
写真40　3号横穴墓　羨道部……　55
写真41　3号横穴墓　玄門部付近の排水溝　55
写真42　3号横穴墓　玄室……　55
写真43　3号横穴墓　玄室中央と奥壁下の排水溝……　55
写真44　3号横穴墓　玄室・玄門部……　55
写真45　3号横穴墓　玄門部・羨道部…　55
写真46　3号横穴墓　玄門部付近の排水溝　55
写真47　3号横穴墓　羨道部土層断面…　55
写真48　4号横穴墓　伐木・刈払後……　56
写真49　4号横穴墓　岩盤検出状況……　56
写真50　4号横穴墓　玄門部検出状況…　56
写真51　4号横穴墓　全景……　56
写真52　4号横穴墓　副室……　56
写真53　4号横穴墓　副室……　56
写真54　4号横穴墓閉塞石と横瓶出土状況　56
写真55　4号横穴墓　上師器甕出土状況　56
写真56　4号横穴墓　紡錘車出土状況…　57
写真57　4号横穴墓　羨道部土層断面…　57
写真58　4号横穴墓　床面精査作業……　57
写真59　4号横穴墓　玄室……　57
写真60　4号横穴墓　玄室床面……　57
写真61　4号横穴墓　玄門部付近の人骨・赤色顔料出土状況…　57
写真62　4号横穴墓　東側壁付近の人骨出土状況……　57
写真63　4号横穴墓　東側壁付近の人骨・赤色顔料出土状況…　57
写真64　5号横穴墓　岩盤検出状況……　58
写真65　5号横穴墓　横穴直上の硬質褐色岩層……　58
写真66　5号横穴墓　羨道部内岩盤崩落状況　58
写真67　5号横穴墓　羨道部土層断面…　58
写真68　4号横穴墓と5号横穴墓の間の土層断面……　58
写真69　5号横穴墓　羨道部……　58
写真70　5号横穴墓　羨道部入口の溝…　58
写真71　5号横穴墓　羨道部入口の溝…　58
写真72　5号横穴墓　羨道部……　59
写真73　5号横穴墓　羨道部入口付近…　59
写真74　5号横穴墓　全景……　59

写真75　5号横穴墓　玄門部……　59
写真76　5号横穴墓　羨道部西壁……　59
写真77　5号横穴墓　羨道部東壁……　59
写真78　5号横穴墓・6号横穴墓……　59
写真79　床面付近の堆積土フルイがけ作業　59
写真80　6号横穴墓　伐木・刈払作業…　60
写真81　6号横穴墓　伐木・刈払後……　60
写真82　6号横穴墓　岩盤検出状況……　60
写真83　6号横穴墓　羨道部土層断面…　60
写真84　6号横穴墓　羨道部土層断面…　60
写真85　6号横穴墓　玄門部……　60
写真86　6号横穴墓　玄門部……　60
写真87　6号横穴墓　全景……　60
写真88　6号横穴墓　玄門部右側の副室と焼土出土状況……　61
写真89　6号横穴墓　羨道部東壁、壁面の凹凸……　61
写真90　6号横穴墓　羽口出土状況……　61
写真91　6号横穴墓　土師器杯出土状況　61
写真92　6号横穴墓　玄室、崩落土除去作業　61
写真93　6号横穴墓　玄門部から玄室…　61
写真94　6号横穴墓　玄室西側壁の副室（蓋あり）……　61
写真95　6号横穴墓　玄室西側壁の副室（蓋除去後）……　61
写真96　7号横穴墓　調査前……　62
写真97　7号横穴墓　玄門部検出状況…　62
写真98　7号横穴墓　羨道部土層断面…　62
写真99　7号横穴墓　羨道部土層断面…　62
写真100　7号横穴墓　玄門部……　62
写真101　7号横穴墓　全景……　62
写真102　7号横穴墓　玄門部から羨道部　62
写真103　7号横穴墓　玄門部……　63
写真104　7号横穴墓　玄門部……　63
写真105　7号横穴墓　玄門部と閉塞石出土状況……　63
写真106　7号横穴墓　玄室……　63
写真107　7号横穴墓　玄室……　63
写真108　7号横穴墓　玄室南西隅……　63
写真109　7号横穴墓　玄門部付近の排水溝　63
写真110　8号横穴墓　伐採・刈払後……　64
写真111　8号横穴墓　玄門部検出状況…　64
写真112　8号横穴墓　羨道部土層断面…　64
写真113　8号横穴墓　古銭出土状況……　64
写真114　8号横穴墓　石棒出土状況……　64
写真115　8号横穴墓　玄門部……　64
写真116　8号横穴墓　全景……　64
写真117　8号横穴墓　玄室調査前……　64
写真118　8号横穴墓　玄室床面調査前…　65
写真119　8号横穴墓　精査作業……　65
写真120　8号横穴墓　古銭出土状況……　65
写真121　8号横穴墓　玄室内堆積土土層断面……　65
写真122　8号横穴墓　南西側壁……　65
写真123　8号横穴墓　奥壁……　65
写真124　8号横穴墓　北東側壁……　65
写真125　8号横穴墓　羨道部土層断面…　65
写真126　2・3号横穴墓……　66
写真127　3・4号横穴墓……　66
写真128　4・5号横穴墓……　66
写真129　5・6号横穴墓……　66
写真130　8号横穴墓西側の洞穴伐採・刈払後……　66
写真131　8号横穴墓西側の洞穴検出作業……　66
写真132　8号横穴墓西側の洞穴入口検出状況……　66
写真133　8号横穴墓西側の洞穴内部……　66
写真134　1号横穴墓出土　須恵器甕……　67
写真135　2号横穴墓出土　土師器甕……　67
写真136　2号横穴墓出土　鉄製釘……　67
写真137　3号横穴墓出土　須恵器横瓶…　67
写真138　4号横穴墓出土　須恵器横瓶…　67
写真139　4号横穴墓出土　土師器甕……　67
写真140　4号横穴墓出土　須恵器甕……　67
写真141　6号横穴墓出土　土師器杯……　67
写真142　6号横穴墓出土　羽口……　68
写真143　8号横穴墓出土　石棒……　68
写真144　8号横穴墓出土　古銭……　68

第１章　調査に至る経過

原町市工業団地造成事業は原町市下北高平字北山・広平地内に計画された事業面積約10haにおよぶ開発事業である。開発予定地内には周知の遺跡である広平遺跡が所在し、また現地踏査と地域住民から情報により北山地区の丘陵尾根上に５基の塚状遺構と既に開口している横穴墓３基、天井が崩落して未開口の横穴墓と予想される窪地５箇所を発見し、前者を北山古墳群、後者を北山横穴墓群として判断した。

工業団地造成は北山横穴墓群、北山古墳群が所在する下北高平字北山地区から計画されていることを考慮して、北山横穴墓群並びに北山古墳群からの試掘調査を開始した。

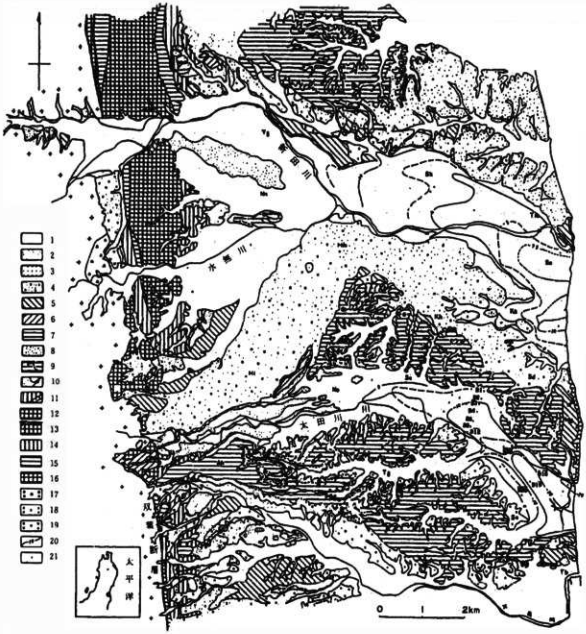
第２章　遺 跡 の 環 境

第１節　地理的環境（図１、写真１）

福島県原町市は、浜通り地方のいわゆる阿武隈高地東縁部東部の低地帯北方、相馬地方のほぼ中央に位置しており、東は太平洋に面し、行政境としては北は相馬郡鹿島町、南は小高町、西は飯舘村・双葉郡浪江町と境界を接している。人口は約49,800人、面積は約198,49㎢で、当地方の産業及び政治面での中核都市となっている。主要交通網は南北方向に縦走するＪＲ常磐線と国道６号線であり、仙台方面や市内などへの通勤・通学手段として利用されている。

原町市の地形は、西部域を南北方向に縦走する阿武隈高地、そこから派生する相双丘陵・常磐丘陵と称される標高100m以下の低丘陵、及び丘陵間に開析された沖積平野とで構成されている。全体として阿武隈高地にかかる西側が高く、東部にいくにつれて標高を下げている。阿武隈高地東縁部と浜通り低地帯と双葉丘陵地域（岩沼－久之浜構造線）によって地質的に明瞭に区分され、低地帯もまた断層以東の相双丘陵地域と以南の常磐丘陵地域とに区分されている。阿武隈高地は東西約50㎞・南北約200㎞の規模を有し、古生代から新生代中頃新第三紀中新生に至る地質を有し、北上高地と並ぶ日本最古の地質構造を形成している。基盤層は古生代末期のアパラキア褶曲と中生代末期のララマイド褶曲に代表される二度に渡る世界的な造山運動の際に、古生層及び中生層に貫入した古期及び新期・最新期の花崗岩、変成岩類である。地形的には山頂がなだらかな隆起準平原を呈しており、原町市付近の標高は500～600m前後になっている。高地周辺では標高100～150m前後を測り、東延するにしたがって徐々に高度を下げ、海岸部では20～30mを測る。

阿武隈高地裾部から東に派生している低丘陵は、新生代第三紀に形成された固結度の低い凝灰岩質砂岩で構成されており、双葉断層により、上層部の相双丘陵（滝の口層）と中・下層の常磐丘陵地域とに区分されている。第四紀洪積世における氷河期と間票期の海水準変動により、丘陵上には海成及び河成の段丘が構成され、高位より順に第１段丘、第２段丘、と命名されている。原町市内では埋没段丘を含む７段丘の存在が知られており、特に第１段丘である畦原段丘と第４段丘である雲雀ヶ原扇状地が発達しているが、他は河川上流域沿いに小規模に分布す



1："沖積層"，2：第6段丘構成層，3：第5段丘構成層，4：第4段丘構成層，5：第3段丘構成層，6：第2段丘構成層，7：第1段丘構成層，8～11：竜の口層，8：同c層（砂岩），9：同c層（シルト岩・京塚沢凝灰岩），10：同b層，11：同a層，12～19：基盤岩類，12：塩手層，13：小山田層，14：富沢層，15：中の沢層，16：栃窟層，17：古生層，18：花崗岩類，19：脈岩，20：竜の口層上面標高(m)，21：ボーリング地点と孔番，Ah：畦原，Bb：馬場，Hi：雲雀ケ原，Hm：原町市街，Ht：東高松，Ka：菅浜，Kh：北原，Kk：片倉，Mg：関形沢，Mm：米々沢，Nn：長野，No：中太田，Om：入郷，Sd：李，Se：下江井，Sk：下北高平，So：下太田，Ss：下洪佐，Tb：塚原，Tg：鶴谷，Tm：館前，Yg：横上

図1　原町地域の地質図（原図　1979　中川他）

る在り方を呈している。低丘陵の間には、各河川が樹枝状に開析した谷間に土壌が埋没した沖積平野が入り込んでいる。標高は20m以下であり、縄文時代前期を中心とするには海岸部の大部分が海水面下にあったと考えられており、２ａ式期の遺跡である萱浜の赤沼遺跡の調査では、海水面を標高６ｍ前後に求めている。現在では圃場整備が進み、一面の美田地帯が形成されている。

第２節　歴史的環境と周辺の遺跡（図２）

最近の原町市では、県営ほ場整備事業などの大規模開発が推進されており、それに伴う埋蔵文化財の発掘調査により、従来不明であった弥生時代遺跡の存在や、福島県浜通り地方における律令期の政治動向を究明する一端となる大きな成果が続々と報告されてきている。原町市では、これまでにも分布調査や発掘調査を通じて遺跡の保存・活用に努めてきたが、今後増加の一途をたどるこれらの遺跡に対して、尚一層の保存・活用の努力が求められているところである。

原町市における古墳時代の遺跡は、平成８年（1996）の新田川北岸の**荒井前遺跡（１）**の調査で、墳丘は削平されて不明であったが、一部途切れながら方形の周溝を巡らす遺構が２基発見され、周溝内からは塩釜式の大型の壺が出土した。こしたことから方形規格の低い墳丘をもつ出現期の古墳と考えられる。現在のところ、この２基の古墳は原町市内で最も古い時期の古墳と考えられる（註１）。荒井前遺跡の対岸、新田川南岸の河岸段丘上には、前方後方墳として東北第４位の規模をもつ国指定史跡の**桜井古墳（２）**が所在しており（註２・３）、周辺の古墳と共に**桜井古墳群上渋佐支群（３）・桜井古墳群高見町支群（４）**を構成している（註４～８）。桜井古墳は平成10年度から３ヵ年かけて実施された史跡整備に伴う確認調査で、主軸長74.5mを測る大型の前方後方墳で、墳丘は後方部３段築成、前方部無段の墳丘であることが確認された。後方部墳頂平坦面からは２基の木棺（形式不明）上部の陥没痕が発見され、古墳時代前期の底部穿孔二重口縁壺が出土している（註８）。

桜井古墳と同じ上渋佐支群に所在する**桜井古墳群上渋佐７号墳（３）**は一辺27.5mを測る大型の方墳である。墳丘の周囲には不整形な周溝が巡り、墳頂平坦面からは２段墓坑と墓坑内に安置された組合式木棺が確認された。特に棺の内部からは布に包んだ珠文鏡が出土しており、桜井古墳と前後する古墳時代前期の築造と考えられる（註９）。

この他、昭和42年（1967）に、中太田所在の墳丘部軸上約40mの前方後円墳と推定される**与太郎内１号墳（５）**、高見町１丁目所在の墳丘部直径約12mの円墳である**高見町１号墳（４）**の発掘調査が行われ、高見町１号墳からは粘土施設を伴う割竹形木棺の痕跡が確認されている（註10）。

平成５年（1993）の**高見町Ａ遺跡（６）**の調査では、既に削平されてマウンドや埋葬施設は未発見であったが、外郭直径約15m、幅約２ｍの円形の周溝１基が発見され、高見町２号墳と命名されている。この調査では塩釜式期の竪穴住居跡２軒が市内で初めて発見されており、この地域が弥生時代から古墳時代への変遷や古墳の出現過程を知る上で重要な遺跡であることを

示している（註11）。高見町Ａ遺跡は同時に桜井古墳群高見町支群としても重要な地域で、平成７年（1995）には市道予定区域とその西側の部分について発掘・試掘調査が実施され、古墳８基、周溝を伴わない刳抜石棺３基、箱式石棺１基の他、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡21棟が確認されており、同古墳群の密度の高さをあらためて示している（註12）。平成８年度（1996）には個人宅地建設にかかる発掘調査で発見された**18号墳**は、直径12mの円墳であり、地表下に設けられた竪穴の埋葬施設に割竹形木棺を安置していることが確認された。埋葬施設内には棺外に３点の杯を副葬しており、後期の古墳であることが確認されている（註13）。平成11年度（2000）にも高見町Ａ遺跡の確認調査が行われ、古墳と住居跡が確認された（註14）。このうち**15号墳**は古墳時代後期に築造された主軸長20mの前方後円墳であることが確認されている

平成８年（1996）には荷渡古墳群（７）で３基の山頂墳が調査され、いずれの埋葬施設も割竹形木棺の直葬であった（註15）。この他、市内各地の丘陵上に古墳が築かれており、北泉の**地蔵堂古墳群（８）**、**江井の西谷地古墳群（９）**、**鶴谷の五治郎内古墳群（10）**などが所在している。

終末期になると、横穴墓（古墳）が多く作られている。現在確認されている分布状況をみると、鹿島町との境に近い新田川北部の上北高平には**北沢横穴群（11）**、**京塚沢横穴群（12）**、**新山前横穴群（13）**、北泉に**大磯横穴群（14）**、**地蔵堂横穴群（15）**、太田川北部の上太田には**道内迫横穴群（16）**、大甕には**西迫東迫横穴群（17）**、雫には**坂下横穴群（18）**、太田川南部の高には、昭和40年（1965）に調査された**高林横穴群（19）**（註16）などが河川流域の沖積平野を望む丘陵に所在しており、古墳の分布の在り方とほぼ合致している。また、中太田の**中畑横穴群（20）**、**羽山横穴群（21）**（註17）、上太田の**新橋横穴群（22）**（註18）は、雲雀ヶ原扇状地を望む丘陵に所在している。この内、昭和48年（1973）に発掘調査が行われた国指定史跡の**羽山横穴（21）**は、玄室奥壁を中心に壁画が描かれており（註17）、調査後に保存施設を建設して年間４回の一般公開を通して社会教育に役立てられている。

註

註１　2002　鈴木文雄　「荒井前遺跡」『県営高平地区ほ場整備事業関連遺跡発掘調査報告書』Ⅲ　原町市教育委員会

註２　1985　玉川一郎　『国指定史跡桜井古墳範囲確認調査報告書』　原町市教育委員会

註３　2002　荒　淑人　『国史跡　桜井古墳』　原町市教育委員会

註４　1969　竹島國基　他　『原町市高見町１号墳・与太郎内１号墳調査報告書』　原町市教育委員会

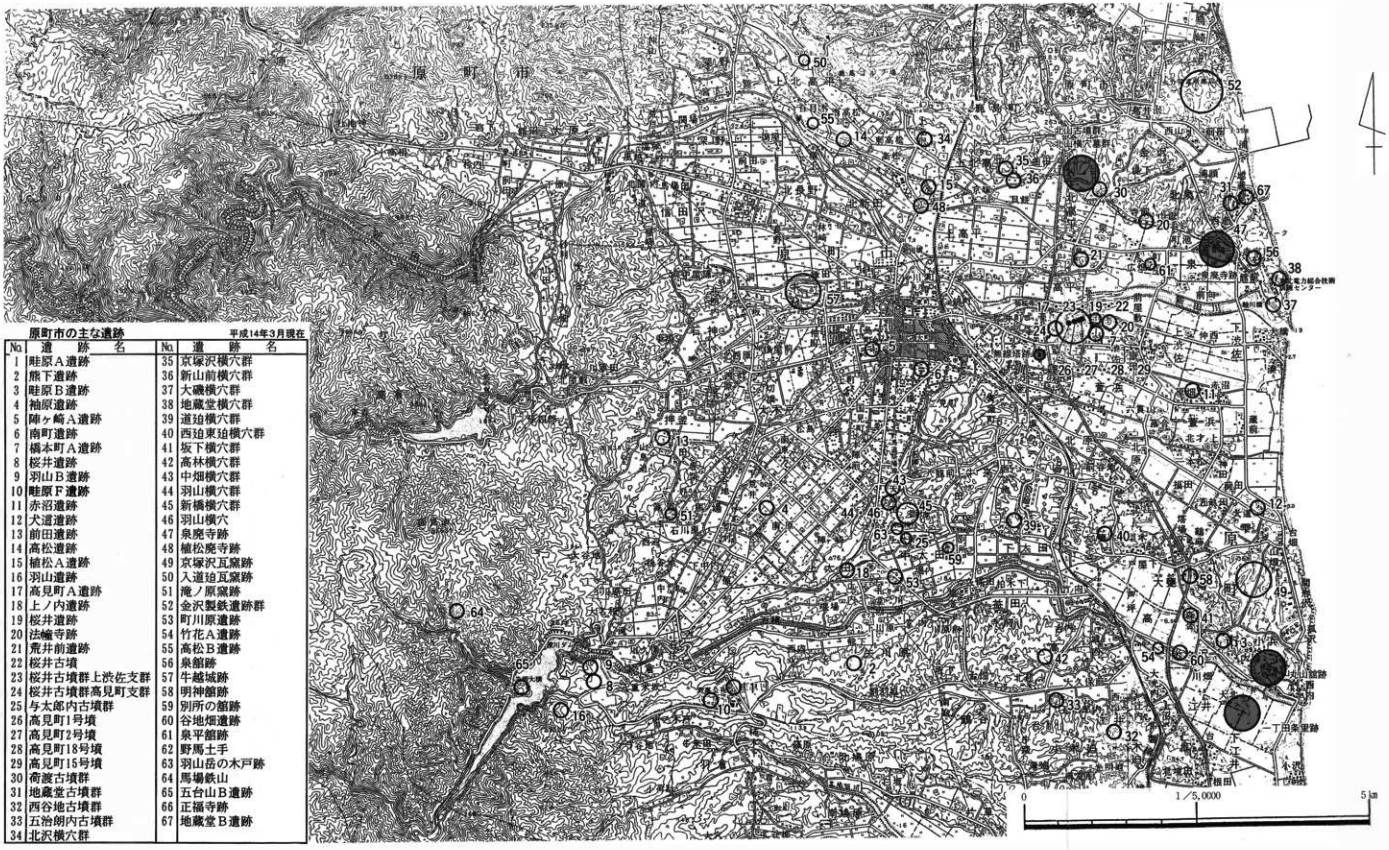
註５　1992　竹島國基　『桜井』

註６　1995　辻　秀人　他　『桜井高見町Ａ遺跡発掘調査報告書』　東北学院大学文学部史学科辻ゼミナール・原町市教育委員会

註７　2001　鈴木文雄　「高見町Ａ遺跡」『原町市内遺跡発掘調査報告書』２　原町市教育委員会

註８　2000　佐藤祐太　『高見町Ａ遺跡』　福建コンサルタント株式会社・原町市教育委員会

註９　2001　鈴木文雄　『桜井古墳群上渋佐支群７号墳発掘調査報告書』　原町市教育委員会



原町市の主な遺跡　　平成14年3月現在

No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	畦原A遺跡	35	京塚沢横穴群
2	熊下遺跡	36	新山前横穴群
3	畦原B遺跡	37	大磯横穴群
4	袖原遺跡	38	地蔵堂横穴群
5	陣ヶ崎A遺跡	39	道迫横穴群
6	南町遺跡	40	西迫東迫横穴群
7	橋本町A遺跡	41	坂下横穴群
8	桜井遺跡	42	高林横穴群
9	羽山B遺跡	43	中畑横穴群
10	畦原F遺跡	44	羽山横穴群
11	赤沼遺跡	45	新橋横穴群
12	犬道遺跡	46	羽山横穴
13	前田遺跡	47	泉廃寺跡
14	高松遺跡	48	植松廃寺跡
15	植松A遺跡	49	京塚沢瓦窯跡
16	羽山遺跡	50	入道迫瓦窯跡
17	高見町A遺跡	51	滝ノ原窯跡
18	上ノ内遺跡	52	金沢製鉄遺跡群
19	桜井遺跡	53	町川原遺跡
20	法輪寺跡	54	竹花A遺跡
21	荒井前遺跡	55	高松B遺跡
22	桜井古墳	56	泉館跡
23	桜井古墳群上渋佐支群	57	牛越城跡
24	桜井古墳群高見町支群	58	明神館跡
25	与太郎内古墳群	59	別所の館跡
26	高見町1号墳	60	谷地畑遺跡
27	高見町2号墳	61	泉平館跡
28	高見町18号墳	62	野馬土手
29	高見町15号墳	63	羽山岳の木戸跡
30	衙渡古墳群	64	馬場鉄山
31	地蔵堂古墳群	65	五台山B遺跡
32	西谷地古墳群	66	正福寺跡
33	五治朗内古墳群	67	地蔵堂B遺跡
34	北沢横穴群		

図2　原町市主要遺跡分布図

註10　註4に同じ

註11　註6に同じ

註12　註7に同じ

註13　1997　鈴木文雄　「高見町A遺跡」『原町市内遺跡発掘調査報告書』1　原町市教育委員会

註14　註8に同じ

註15　2000　荒　淑人　『荷渡古墳群』　原町市教育委員会

註16　1965　竹島國基　他　『原町市高林古墳群調査報告書』　原町市教育委員会

註17　1974　渡邊一雄　他　『羽山装飾横穴発掘調査概報』　原町市教育委員会

註18　1999　堀　耕平　「新橋横穴墓群」『原町市内遺跡発掘調査報告書』4　原町市教育委員会

第３章　遺跡の概要（図３～７）

原町市内では古墳時代の横穴墓群あるいは横穴墓が22箇所確認されているが、新田川北岸の丘陵南斜面（上北高平・下北高平・泉）に最も多く分布し、次いで太田川北岸の丘陵南斜面（中太田・下太田・大甕・高）、太田川支流の牛来川北岸の丘陵南斜面などに分布している。これまでに発掘調査が行われたのは、高林１号横穴墳（註１）と彩色壁画と金銅装大刀などの副葬品で知られる国指定史跡羽山横穴（第１号横穴）と第２号横穴（註２）の３基のみで、いずれも太田川北岸に分布する。新田川流域の横穴墓としては、同じ丘陵の京塚沢横穴墓群・新山前横穴墓群・町池横穴墓が分布するが、これらの横穴墓群は阿武隈高地から太平洋に向かって派生する標高40m前後の低位丘陵の頂部と南斜面に隣接し、丘陵の南側には原町市内北部を流れる新田川と、新田川によって形成された沖積平野が広がる。新田川北岸の丘陵と南斜面では、上北高平から河口近くの泉まで連続的に７箇所で横穴墓が確認されているが、西の新山前横穴墓群・東の町池横穴墓の間約２．７キロメートルはこれまで空白域であったが、北山横穴墓群の発見はこの空白を埋めるものとなり、今回の北山横穴墓群は新田川流域の横穴墓としては初の調査例となる。

北山横穴墓群の位置する低位丘陵は原町市と北に隣接する鹿島町との間に阿武隈山地から太平洋岸まで東西に続き、標高は45m前後である。北山横穴墓群は、新田川下流の水田地帯が良く見渡せる標高35m前後の南斜面に分布している。北山横穴墓群には８基の横穴簿があるが、大きく３つの地点に分けられる。１つ目は１～６号墳のある南斜面東側グループ。２つ目は７号墳のある小支谷東斜面地点。３つ目は８号墳のある南斜面西側地点である。

北山横穴墓古墳群は、原町市工業団地造成事業にかかる造成予定地内において実施された現地踏査の際に、地元住民からの聞き取り調査で新たに発見された横穴墓群である。また、この横穴墓群の立地する丘陵上には、小規模な墳丘をもつ古墳群が分布することもこの現地踏査で明らかになった（註１）。

（周辺の遺跡）弥生時代の遺跡では、北山遺跡・荷渡Ｂ遺跡・荷渡遺跡・広平遺跡・堤下Ａ遺跡・道金沢遺跡があるが、発掘調査の例は少なく遺跡の詳細は不明である。古墳時代の遺跡では、荷渡古墳群（註２）がある。この古墳群は北山古墳群と同丘陵上に所在していた古墳時代後期の群集墳である。奈良・平安時代の遺跡では、堤下Ａ遺跡・道金沢遺跡・法幢寺跡がある。法幢寺跡の発掘調査では竪穴住居跡が発見されている。中世の遺跡では、下北高平館跡がある。発掘調査では館の周囲にめぐらされた堀が検出されている。近世の遺跡では、法幢寺跡があり、墓域部分の発掘調査の結果、多数の土坑墓が検出されている。

図３　遺跡位置図

第４章　調査の方法と調査経過

第１節　現地踏査

北山横穴墓群が所在する山林には篠竹や雑草が密生して生い茂り、非常に見通しの悪い場所であったが、現地踏査と地元住民からの情報提供により、事業地内に開口した横穴を３基確認した（後の１号横穴墓・７号横穴墓・８号横穴墓）。また、そのうちの１基（後の７号横穴墓）は、第２次大戦中に地権者宅で防空壕として利用したことを確認した。さらに、工業団地造成予定地の詳細地形図を参考にしながら現地踏査したところ、１号横穴墓の西側に埋没した横穴墓らしき斜面の掘り込みと縦長の窪みを確認した（２～６号横穴墓）。また、後の８号横穴墓の西側にも同様の窪みを確認した。こうして確認した計９カ所は、いずれも丘陵南斜面に位置する南北に長い窪みであった。

第２節　試掘調査

現地踏査で確認した横穴墓の可能性のある９箇所は、いずれも土砂や岩が厚く堆積しているため、これらを取り除いて横穴墓（古墳）としての玄門部や羨道部を持つ横穴かどうか、また古墳時代の遺物があるかどうか確認することが必要となった。なお、羨道部は非常に長く斜面南端の崖近くまで伸びていることが想定されたが、調査期間の試掘調査は、南北に長い窪みに対して中軸線上とそれに直行する形で羨道部中央付近と玄門部と想定される箇所を通るセクションベルトを残して人力で掘り下げた。しかし、羨道部と想定される窪みには予想の倍以上に覆土が厚く堆積しており、特に２～６号横穴墓では底部付近に掘り下げるにしたがって狭くなり作業が困難ってきたため、セクションベルトの撮影・実測の後ベルトを崩し、またベルトを残して掘り下げるという作業を２～３度繰り返しながら羨道部の底面を検出した。しかし、玄門部付近には人力で動かせない大きな崩落した岩が折り重なっていたため、２～６号横穴墓では小形のバックホウを導入して岩を除去することとした。作業は遺構を傷めないように掘り下げた羨道部を一旦埋め戻してバックホウを入れ、アームを伸ばして玄門部と予想される付近の岩を除去した。なお、バックホウの導入に際しては周囲が山林で進入路がないため、立ち木を補償して伐木し、進入路と廃土置き場を確保した。また、現地は斜面で足場が悪いため、斜面の南端に廃土を平に積んで足場を確保した。

試掘調査の結果、横穴墓と予想した９箇所のうち、丘陵最西端に位置する、後の８号横穴墓の西隣にあった窪みは、玄門部付近と思われる箇所の岩盤の側面が大きくえぐり込まれた形状が横穴墓ときわめて類似していたが、その前面の深さ３ｍほどの堆積土を除去した結果、岩盤の側面にできた横長のクレバス状の大きな自然の洞穴であることを確認した（写真130～133）。他の８カ所については、斜面に直行する細長い窪みが横穴古墳の羨道部の形態を有していること、古墳時代終末期の土師器・須恵器等の横穴墓に供献されたと考えられる遺物が出土したことなどから横穴墓であることを確認した。

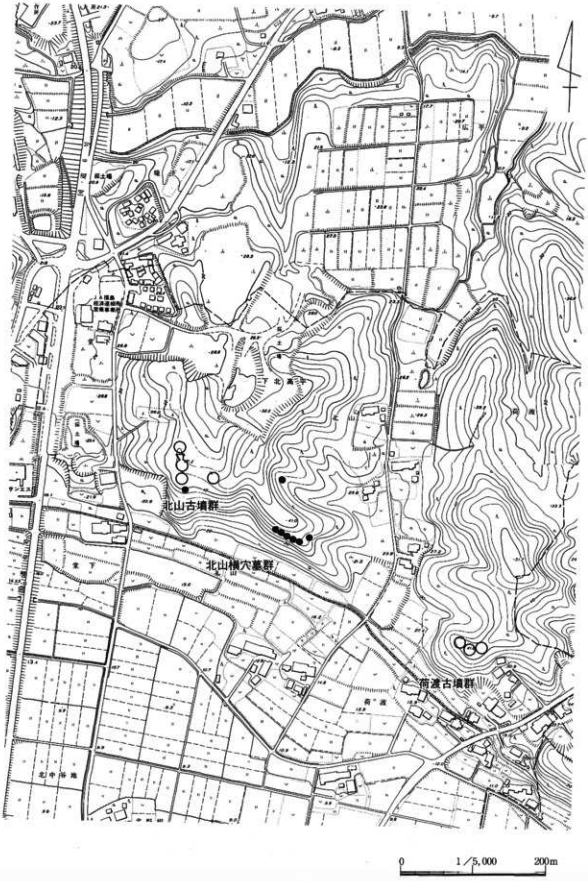


図4　北山横穴墓群　地形図

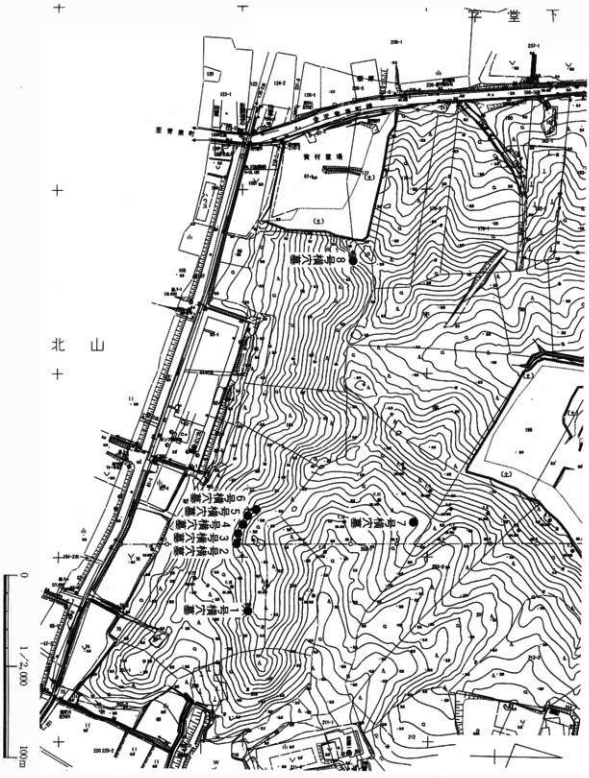


図５　北山横穴墓群　遺構配置図(1)

第３節　本調査

本調査は、さきの試掘調査で確認した計８基の横穴墓について実施することとした。ただし、羨道部は試掘調査時に検出しているため、玄門部から玄室を本調査の対象とすることとした。

本調査は横穴墓群の最東端に位置する１号横穴墓、その西の同一斜面上に並ぶ２～６号横穴墓、その北側の尾根に位置する７号横穴墓、そして遺跡の西端に離れて位置する８号横穴墓の順に調査を行うこととした。

１・７・８号横穴墓はすでに開口しており、玄門部が完全に埋まっていた２号横穴墓も、玄門部から玄室の中を覗き込むと、中が空洞であることが確認できた。このため、羨道部を縦断する土層断面のラインを玄室内に延長し、セクションベルトを残して土層を観察しながら、玄室内の堆積土を少しずつ取り除いた。また、玄室内の堆積土は全て２㎜メッシュの上で少しずつヘラを使ってすり潰し、小形の玉類も見逃さないようにフルイがけを行った（写真79）。

一方、３～６号横穴墓では崩落した大きな岩が玄室の中まで詰まっており、調査中にも新たに頭上から岩が落ちてくる危険性があったため、再び小形のバックホウを入れて玄室上部の岩盤とその周囲の崩れそうな岩も取り除いた。このため、３～６号横穴墓については玄室の壁面上端から天井部の調査ができなかった。玄室内に詰まった土砂はスコップ・ジョレンで取り除いたが、床面近くの土砂は移植ゴテで取り除いた。特に、６号横穴墓では東の側壁が土圧で内側に傾き、玄門部の壁も壁沿いに堆積した土砂に支えられて立っていた状態であったため、完全に玄室内の土砂を取り除くことができなかった。天井部が完全に崩壊した横穴墓も、玄室内が空洞であった横穴墓と同様にフルイがけを行った。

なお、５号横穴墓ではバックホウで羨道部に堆積した大きな岩を取り除き、人力で壁面を精査する作業を繰り返しながら玄門部の検出に努めたが、なかなか玄門部の壁面に到達できず、ようやく玄門部の壁面と予想される箇所を検出したが、最終的には他の横穴墓よりも玄門が１m以上奥にあった。バックホウを羨道部から出して再び人力で玄門部と思われる穴の精査を行った結果、高さ約50㎝・幅約60㎝と非常に狭く、内部には岩粒が混じった砂が充満していた。その奥がいわゆる玄室かどうか、さらに調査するには、再々度バックホウを搬入して玄室上部の崩落していると思われる岩盤を取り除く必要があったが、はたして人間が入れるいわゆる玄室があるかどうか疑問な点もあり、調査期間と調査費用の制約からも、その奥の調査をするまでには至らなかった。

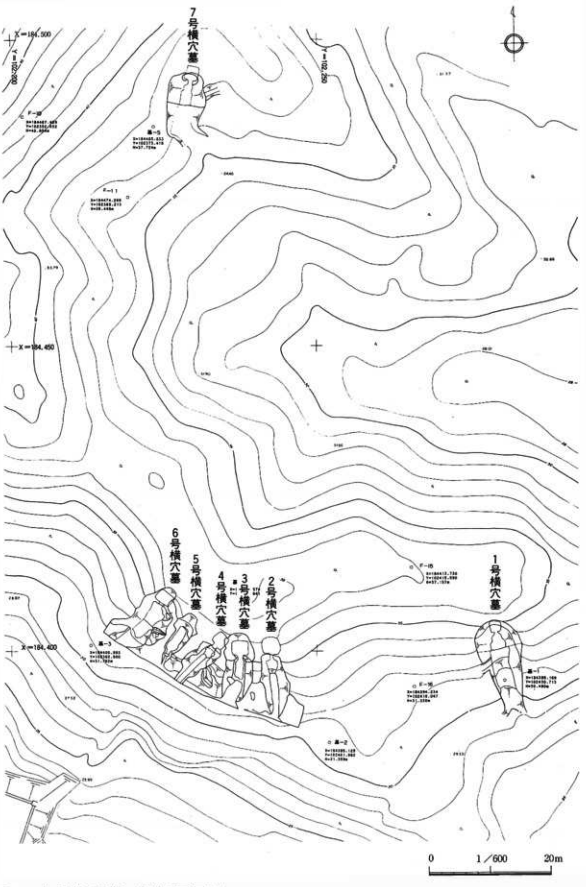


図6　北山横穴墓群　遺構配置図(2)

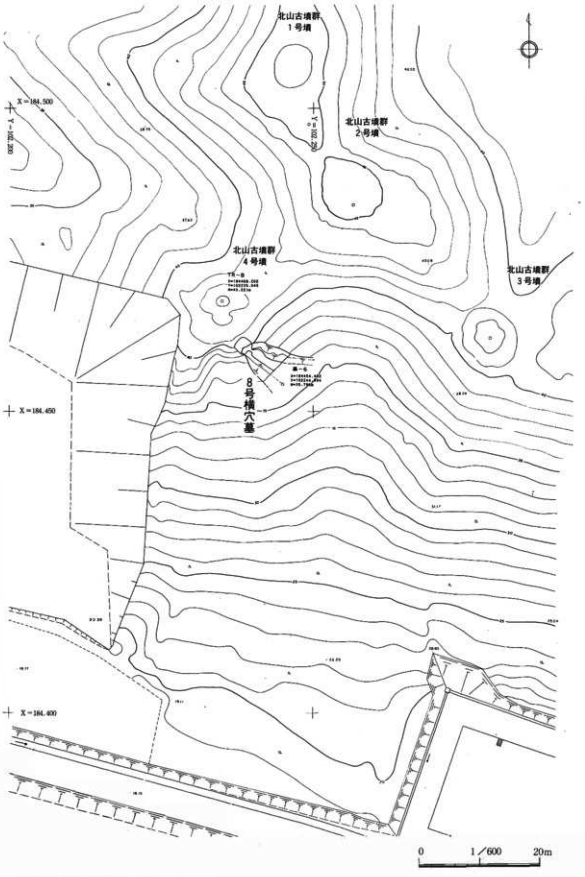


図７　北山横穴墓群　遺構配置図(3)

第5章　調　査　成　果

第1節　遺構と遺物

1号横穴墓（図8～12、写真2～16・134）

保存状況　玄門部付近は厚さ180cmの覆土に覆われていたが、玄門部の上端が削り取られて開口しており、開口部から人が入り込んだ痕跡がある。地権者や付近の住民の一部には、横穴の存在が知られていた。

玄　　室　床面は奥行き180cm・幅182cmのほぼ方形。床面の四周と奥壁から玄門部に向かって幅7cm・深さ5cm・断面形U字形の排水溝が掘り込まれている。床面の西側半分には直径10～20cmの平滑な円礫が敷き詰められており、棺床と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、奥壁には線刻があるが、開口していたために後世に落書きされたものと考えられる。床面から天井部までの高さは120cm。天井部の形態はドーム形。

玄 門 部　縦130cm・幅130cm（盗掘時に幅が広げられている）。盗掘のため本来の形状は不明。玄門部入口付近には長さ30～40cmの人頭大の石や直径10～20cmの平滑な円礫が散乱しており、玄門部を閉塞していた石積が盗掘時に破壊されたと考えられる。床面は玄門部から羨道部に向かって緩やかに傾斜している。

羨 道 部　長さ約1,300cm（南半分は未掘のため推定）・幅280cm。
羨道部中央に、玄室から前庭部に向かって幅7cm・深さ5cm・断面形U字形の排水溝が掘り込まれている。

副　　室　玄門部左側近くの羨道部斜面に縦60cm・横50cm・最大深さ80cmのほぼ方形の副室が上から掘り込まれている。

出土遺物　須恵器甕破片（玄室床面直上・羨道部覆土中位）

2号横穴墓（図12～15、写真17～29・126・135～136）

保存状況　玄門部付近は厚さ300cm以上の覆土に覆われていたため、玄門部は未開口であった。

玄　　室　床面は奥行き258cm・幅267cm・平面形は隅丸方形である。玄門部付近には縦120cm・横60cm・深さ5cmの隅丸長方形の窪みを掘り込んでいる。床面の四周に幅9cm・深さ4～8cm・断面形は壁側にえぐりこんだ形で排水溝が掘り込まれている。床面の西側半分には直径10～20cmの平滑な円礫が敷き詰められており、棺床と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面から天井部までの高さは160cmであるが、天井部の中央が剥落しているため、本来の高さは約145cmであったと考えられる。天井部の形態はドーム形。

玄 門 部　高さ97cm・幅76cmで上部はアーチ形。玄門部の床面中央には玄室床面四周の排水溝と玄門部付近の窪みからの排水を受ける排水升と考えられる直径24cm・深さ21cm

の丸い穴が掘り込まれている。玄門部の外側には直径10～20cmのこぶし大の平滑な石が散乱しており、玄門部が埋没する以前の古い段階に、玄門部を閉塞していた石積が崩れたものと考えられる。玄門部と羨道部の間には高さ60cmの段差がある。

羨道部　長さ920cm以上（南半分は未掘）・幅120cm。2号横穴墓の羨道部覆土が3号横穴墓の羨道部覆土に切られている。

副　　室　向かって左側の羨道部斜面に奥行き57cm・幅50cm・最大高35cmの三角形の副室が横から掘り込まれている。

出土遺物　土師器壺（玄室床面）・木炭粒（羨道部の堆積土）

2号横穴墓と3号横穴墓の間の副室（図13、写真30～31・126）

副　　室　2号横穴墓と3号横穴墓の間の舌状に突出した岩盤の先端に位置する。奥行170cm・幅60cm・最大高70cmの副室が横から掘り込まれている。

3号横穴墓（図16～17、写真32～47）

保存状況　玄門部付近は厚さ300cm以上の覆土に覆われていたため、玄門部は未開口であったが、玄室の天井部は崩れていた。

玄　　室　床面は奥行き203cm・幅258cm、平面形はやや長い方形である。床面の四周と奥壁から玄門部に向かって幅6～9cm・深さ5cm・断面形U字形の排水溝が掘り込まれている。排水溝には直径3～5cmの礫が多数詰まっており、円礫もあるが角礫が多かった。床面には礫は敷かれておらず、1・2号横穴墓では棺床部に直径10～20cmの平滑な円礫を敷いていた状況とは異なり、もともと排水溝に小振りな角礫を詰めていたように思われる。壁面は高さ90cmまで残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。天井部は崩落していたため、床面から天井部までの高さは不明である。

玄門部　上部は崩落のため不明であるが、幅は85cm。床面には玄室から排水溝が続いているが、幅9～14cm・深さ15cm・断面形はV字形で、玄室内の排水溝とは形状が異なっている。

羨道部　長さ750cm以上（南半分は未掘）・幅80cm。羨道部の西側に直径30cm・深さ40cmの副室が斜め上方から掘り込まれており、底面には木炭粒が厚さ3cm程堆積していた。また、羨道部南東隅付近からも木炭片がまとまって出土した。3号横穴墓の羨道部覆土が2号横穴墓の羨道部覆土を切っている。

出土遺物　棒状鉄製品（玄室奥壁沿いの排水溝）。須恵器堤瓶1点・土師器鉢1点・石製紡錘車1点木炭片（玄門部）・木炭片（羨道部の堆積土）

3号横穴墓と4号横穴墓の間の副室（図13、写真39・127）

副　　室　2号横穴墓と3号横穴墓の間の舌状に突出した岩盤の先端に位置する。奥行100cm・幅30cm・最大高70cmの副室が横から掘り込まれている。

4号横穴墓（図13・18～20、写真48～63・127～128・138～140）

保存状況　玄門部付近は厚さ300㎝以上の覆土に覆われていたため、未開口であったが、玄室の天井部は崩落していた。

玄　　室　床面は奥行き235㎝・幅227㎝の方形。床面の四周には幅8～13㎝・深さ5㎝・断面形U字形の排水溝が掘り込まれている。床面全体に直径10～20㎝の平滑な円礫が敷き詰められている。床面の東側と南側（玄門部内側）の2箇所から骨粉状の人骨がまとまって出土した。骨粉は崩落していた天井部の土圧によって床面に敷き詰められた礫に密着し、褐色に変色していたが、それぞれの箇所で頭骨と思われる円形の骨粉のまとまりが検出されたことから、埋葬された遺体は2体であったと考えられる。東側の遺体は、この位置に棺を置き、頭位を南に向けていたと考えられる。南側の遺体は頭蓋骨と考えられる円形の骨粉が胴体と考えられる部位から西に離れているが、胴体の向きからすると、頭位は北であったと考えられる。玄門部付近に遺体を安置するのは奇異に思われるが、東側・南側いずれの遺体も頭蓋骨・脊椎骨・四肢骨と思われる部位の位置関係が保たれており、追葬あるいは盗掘等の理由により、骨がまとめられたことはなかったと考えられることから、埋葬時の原位置を保っていると考えられる。また、玄門部から玄室南端にかけての東西90㎝・南北100㎝の不整形な範囲に、赤色顔料が骨片と敷石の間に撒かれた状態で検出された。今回、赤色顔料の分析は行っていないが、桜井古墳群上渋佐支群7号墳で成分分析を行った水銀朱およびベンガラと比較すると、この赤色顔料はベンガラと考えられる。壁面は高さ140㎝まで残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。天井部は崩落していたため、床面から天井部までの高さと形態は不明である。

玄 門 部　高さ71㎝・上辺76㎝・底辺116㎝・厚さ上辺12㎝・底辺24㎝の長方形の板状に加工した黄白色の凝灰質泥岩で玄門部を閉塞している。この閉塞石（岩）の下には高さ12㎝・幅18～21㎝の岩3個を並べて根石にしているが、この根石は玄門部の床面から約30㎝浮いた状態にあることから、この閉塞石は玄門部付近を一旦埋め戻して据え置かれたと考えられる。

羨 道 部　長さ750㎝以上（南半分は未掘）・幅80㎝。羨道部の壁面上部は黄褐色岩層・灰白色岩層を、壁面下部は黄白色砂層を掘り込み、底面は茶褐色砂層の上面まで掘り込んでいる。羨道部西壁の黄白色岩層と黄白色砂層の間に副室が掘り込まれている。覆土は黒褐色砂。また。南西側の副室には木炭粒が少量混入している。4号横穴墓の羨道部覆土が5号横穴墓の羨道部覆土を切っている。

出土遺物　骨粉2体分。赤色顔料（ベンガラと考えられる）（玄室床面）。石製紡錘車1点（玄門部床面直上）。須恵器堤瓶1点・土師器鉢1点・閉塞石1点（玄門部覆土下位）。

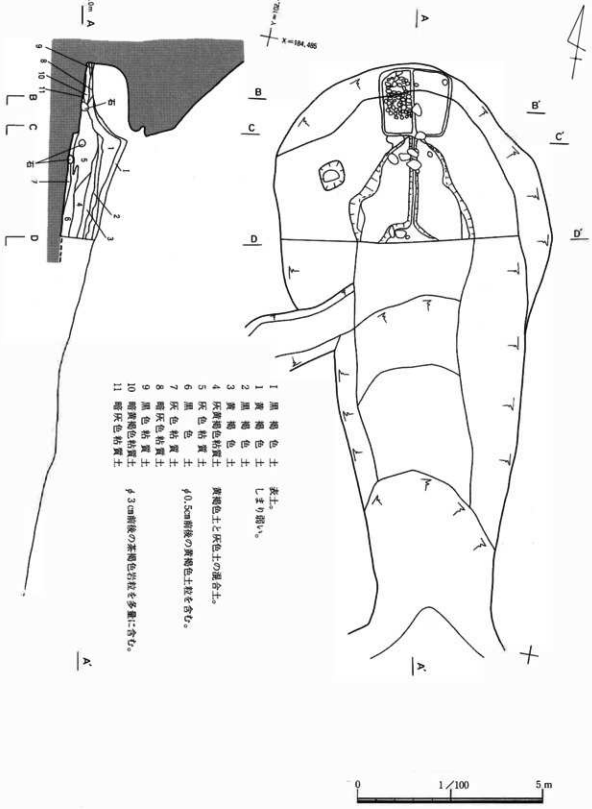
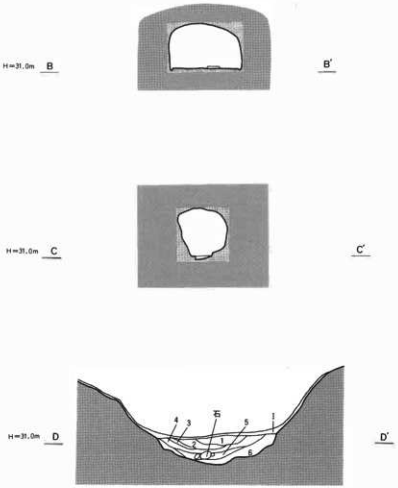


図８　１号横穴墓　平面図・土層断面図(1)



1　黒色土　表土。
1　黒褐色土　φ約1㎝の黄褐色土粒を含む。
2　黄灰色土　黄褐色岩粒と灰白色岩粒の混合土
3　黒色土　φ約1㎝の黄褐色土粒・φ約0.2㎝の木炭粒を含む。
4　黄褐色土　〃　〃
5　黒色土　〃　〃
6　黄灰色土　黄褐色岩粒と灰白色岩粒の混合土

0　1/100　5m

※石は玄門部の閉塞石が移動されたもの。SX8の寛永銭の出土した埋積土に比べ、あきらかにしまりがある。この閉塞石がはずされたのは、羨道部が埋没した比較的初期と思われる。

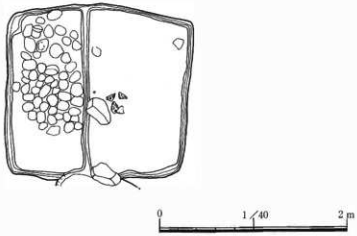


図9　1号横穴墓　土層断面図(2)・玄室平面図

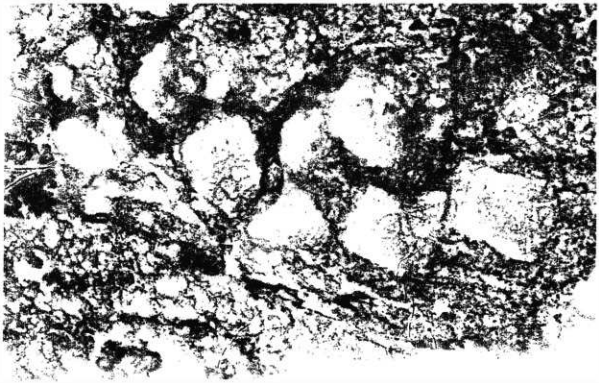


図10　1号横穴墓　玄室天井部の工具痕拓影図

図11　1号横穴墓　玄室奥壁の線刻拓影図

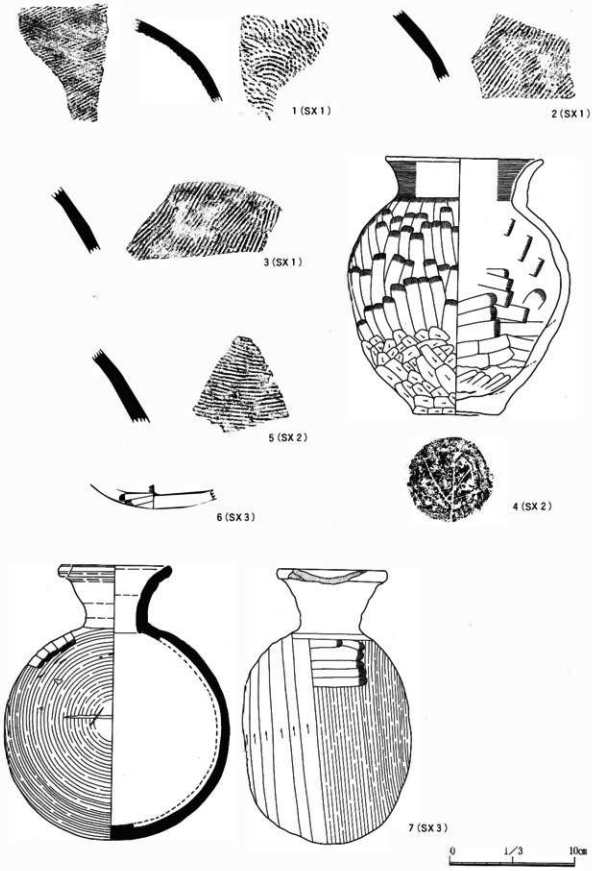
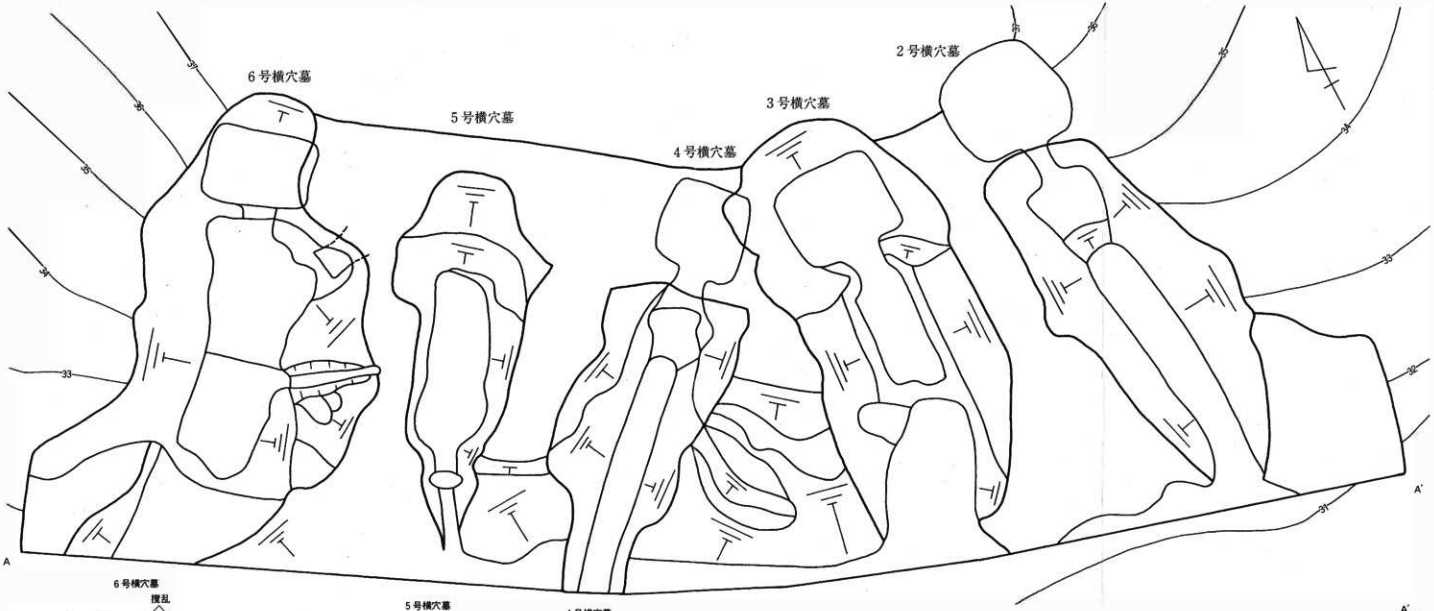


図12　1・2・3号横穴墓出土遺物実測図



5号横穴墓

1　黒 褐 色 土　φ0.5～5cmの茶褐色岩粒を含む。
2　暗黄褐色土　φ1cmの前後の茶褐色岩粒を含む。
3　暗 褐 色 土　φ0.5cm前後の木炭粒を含む。
4　暗黄褐色土　φ1cm前後の茶褐色岩粒を含む。
5　黒 褐 色 土　φ0.5cm前後の木炭粒を含む。
6　黄 白 色 土　φ0.5～5cmの茶褐色岩粒を多く含む。
7　黄 白 色 土　φ0.5～5cmの茶褐色岩粒を多く含む。
8　黒 褐 色 土　φ0.5cm前後の木炭粒を含む。
9　暗 褐 色 土　φ0.5cm前後の木炭粒を含む。

6号横穴墓

1　黒 褐 色 土
2　黄 白 色 土　φ10cm前後の茶褐色岩粒を含む。

4号横穴墓

1　黒 褐 色 土　φ0.5～3cmの茶褐色岩粒を多く含む。
2　黄 褐 色 土　黒褐色土をまだらに含む。
3　暗黄褐色土
4　黒　色　土　黄色砂・φ1cmの前後の茶褐色岩粒をまだらに含む。
5　暗黄褐色土　φ1cmの前後の茶褐色岩粒を含む。
6　黒　色　土　φ0.5cm前後の木炭粒を多く含む。
7　黄 白 色 土　φ3cm前後の茶褐色岩粒を多量に含む。

2号横穴墓

1　黒 褐 色 土
2　黒　色　土　φ0.3cm前後の木炭粒を少量含む。
3　暗黄褐色土　φ0.3cm前後の木炭粒とφ3cm前後の茶褐色岩粒を少量含む。
4　黄 褐 色 土　φ3cm前後の茶褐色岩粒を含む。

3号横穴墓

1　暗黄褐色土　φ3cm前後の茶褐色岩粒を多く含む。
2　暗褐色砂質土

Ⅰ　暗 褐 色 土　φ1cm前後の黄褐色土粒を含む。表土。
Ⅱ　茶 褐 色 土
Ⅱ'　暗灰色土と茶褐色土のまだらな層
Ⅲ　黄 褐 色 土
Ⅳ　茶 褐 色 土

0　1／100　5m

図13　2・3・4・5・6号横穴墓　平面図・土層断面図

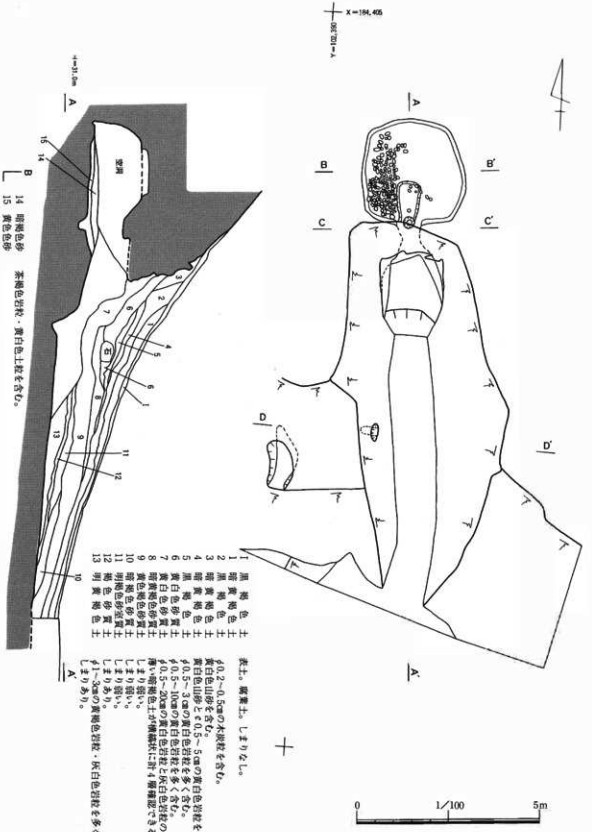


図14　２号横穴墓　平面図・土層断面図(1)

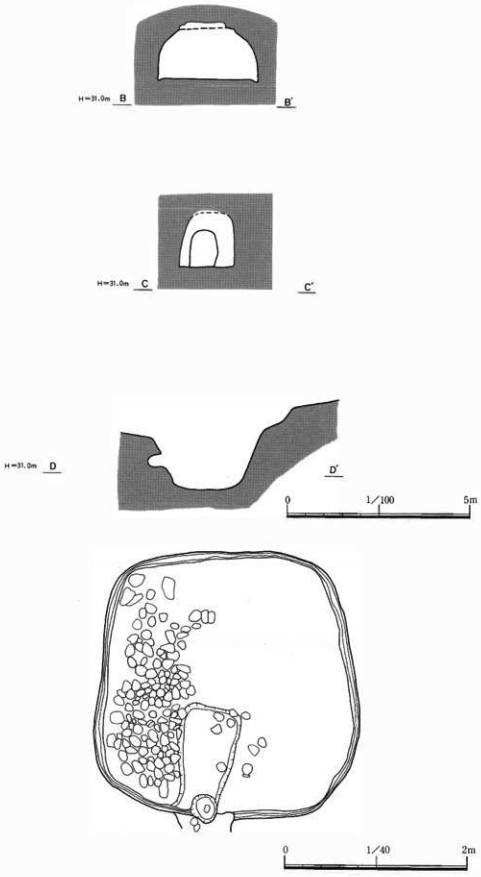


図15　２号横穴墓　土層断面図(2)・玄室平面図

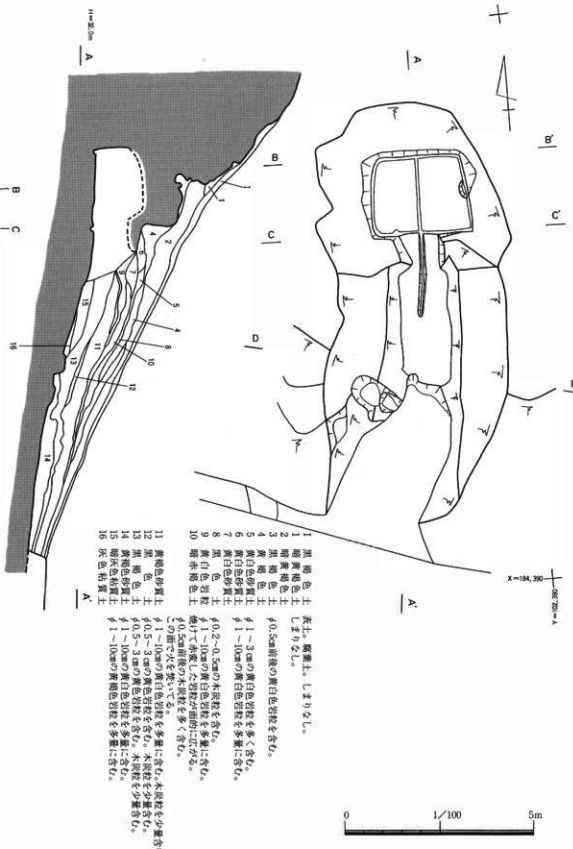


図16　３号横穴墓　平面図・土層断面図(1)

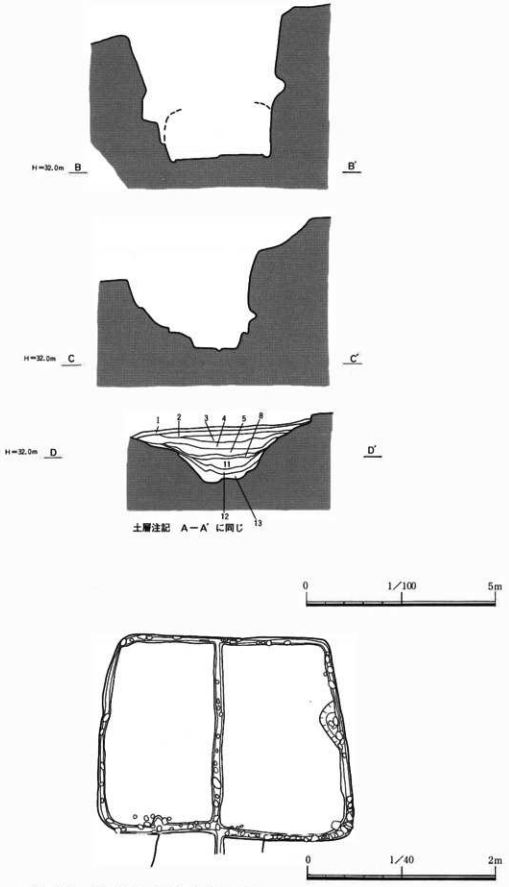
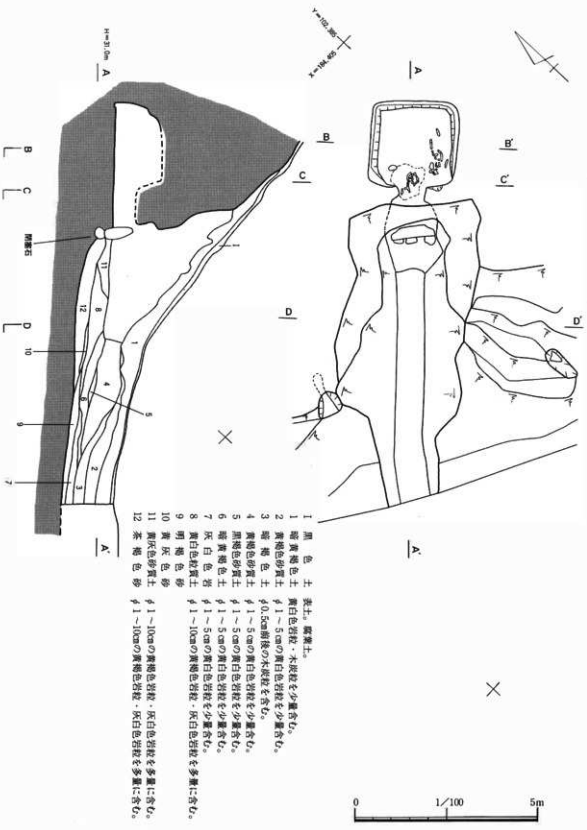


図17　３号横穴墓　土層断面図(2)・玄室平面図



1　黒　褐　色　土　　粘土・風化粒少量含む。
2　黒褐色砂質土　　黄白色粘土・木炭粒を少量含む。
3　暗　褐　色　土　　φ1～5mの黄白色粘土を少量含む。
4　黒褐色砂質土　　φ0.5m前後の大粒粒を含む。
5　暗　褐　色　土　　φ1～5mの黄白色粘土を少量含む。
6　暗　褐　色　土　　φ1～5mの黄白色粘土を少量含む。
7　灰　白　色　土　　φ1～5mの黄白色粘土を少量含む。
8　黄白色粘質土　　φ1～10cmの黄褐色粘土・灰白色粘土を多量に含む。
9　灰　黒　色　砂
10　灰　黒　色　砂
11　黒灰色砂質土　　φ1～10cmの黄褐色粘土・灰白色粘土を多量に含む。
12　茶　褐　色　砂　　φ1～10cmの黄褐色粘土・灰白色粘土を多量に含む。

図18　４号横穴墓　平面図・土層断面図(1)

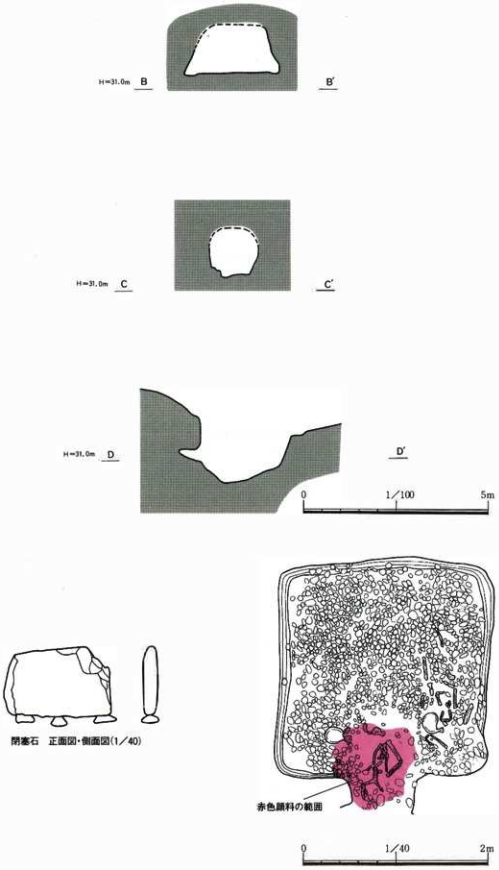


図19　4号横穴墓　土層断面図(2)・玄室平面図

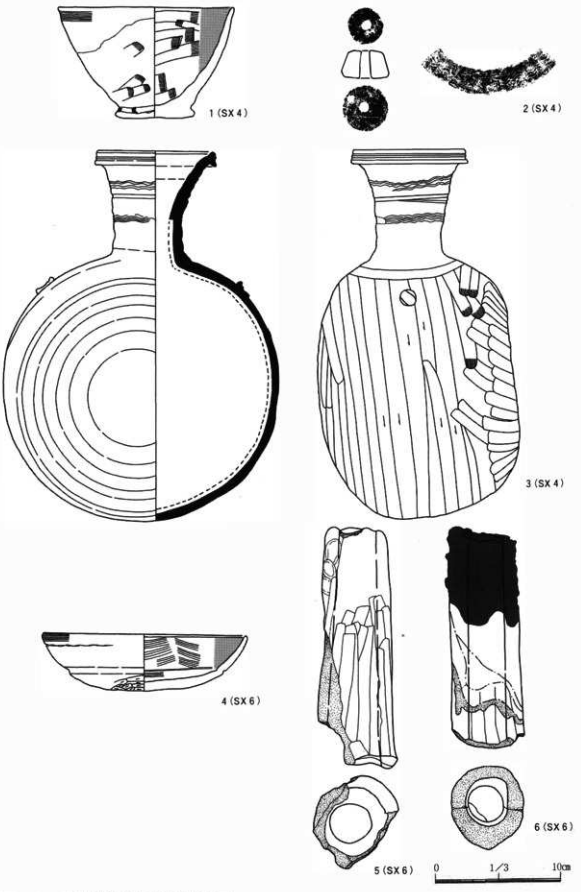


図20　4・6号横穴墓出土遺物実測図

5号横穴墓（図13・21～22、写真64～79・128～129）

保存状況　玄門部付近は厚さ300㎝以上の覆土に覆われていたため、未開口であった。

玄　　室　第4章第3節の本調査の項目で述べたように、玄室の調査までには至れなかった。

玄 門 部　玄門部の壁面と予想される岩盤の精査を行った結果、高さ50㎝・幅60㎝と非常に狭い穴を検出した。内部には岩粒が混じった砂が充満し、掘り込みは奥まで続いていたが、その先の調査には至れなかった。

羨 道 部　長さ約700㎝・幅150㎝。羨道部の南端が細くなり、そこに直行する形で溝が掘られている。溝の規模は長さ85㎝×幅30㎝×最大高60㎝を測り、ここに板状のものをはめ込んでいた可能性があり、仕切り溝であったと考えられる。この溝によって羨道部の内側と外側が区切られていたか、あるいはこの溝と玄門部と想定した壁面の間は前室・後室に分けた空間の前室を意識した空間であった可能性も考えられる。5号横穴墓の羨道部覆土が4号横穴墓の羨道部覆土に切られている。

出土遺物　羨道部のほぼ中央と前庭部に長さ約0.4mの焼けた石がそれぞれ出土しており、閉塞石が移動されて、何らかの理由で火を受けたものと考えられる。

6号横穴墓（図13・20・23～24、写真80～95・129・141～142）

保存状況　玄門部付近は厚さ300㎝以上の覆土に覆われていたため、未開口であった。

玄　　室　北東コーナー付近は、崩落した大きな岩に塞がれ、さらに内側に大きく内湾して傾いていた東側壁がその岩で支えられていたために、北東コーナー付近は完掘できなかった。また、南西コーナーから玄門部までの壁沿いの床面も、南側壁の倒壊を防ぐため完掘できなかった。確認できた範囲では、床面の奥行き185㎝・幅270㎝の隅丸長方形。奥壁沿いと西側壁沿いには幅7～10㎝・深さ5㎝・断面形U字形の排水溝が掘り込まれている。完掘できた南東コーナーでは東側壁沿いから玄門部にかけては排水溝が掘り込まれていなかった。床面中央は、削り取られたように不整形に窪んでいた。壁面は高さ126㎝まで残存する。西側壁は約85度で立ち上がるが、東側壁は約75度で大きく内湾して立ち上がる。天井部は崩落していたため、床面から天井部までの高さと形態は不明であるが、残存する壁面が全体に弧を描いて立ち上がることから、アーチ形であったと考えられる。

玄 門 部　玄門部の幅は85㎝であったが、その前面を高さ79㎝・幅60㎝・上辺厚18㎝・底辺厚29㎝の板状に加工した凝灰質泥岩で閉塞していた。閉塞石の中央には、高さ40㎝・幅35㎝のアーチ形の穴を開けている。

羨 道 部　長さ900㎝以上（南半分は未掘）・幅220㎝。羨道部の南東隅近くの床面直上から土師器杯が出土している。

1号副室　玄室の西側壁に、奥行45㎝・幅26㎝・最大高21㎝の副室が横から掘り込まれ、縦21㎝・横24㎝・厚さ8㎝の円形の岩で塞いでいた。中は空洞で、遺物はなかった。

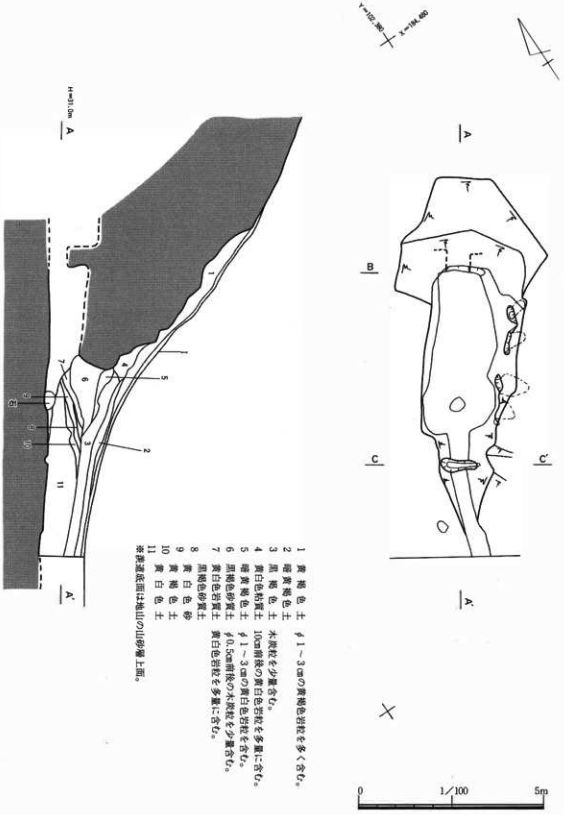
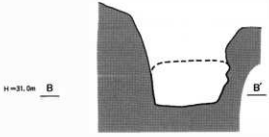


図21　５号横穴墓　平面図・土層断面図(1)



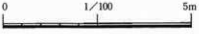


図22　5号横穴墓　土層断面図(2)

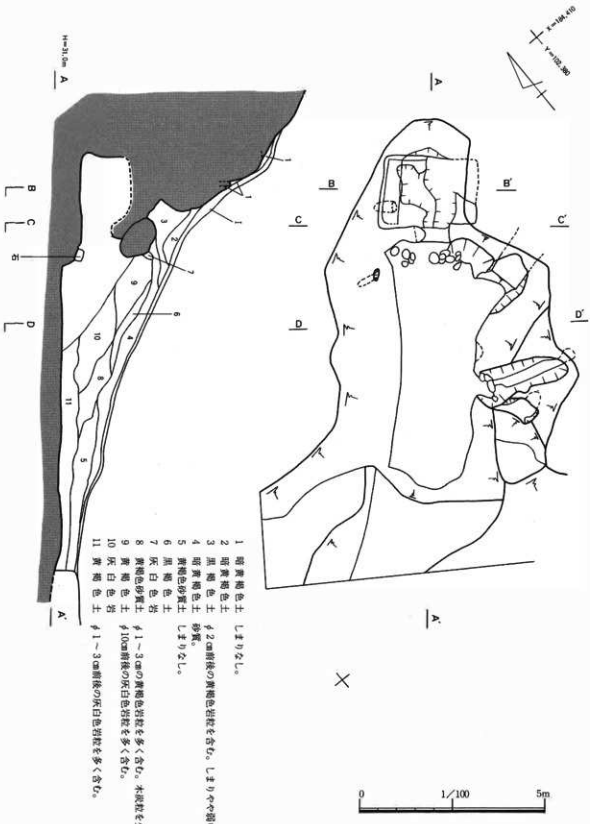
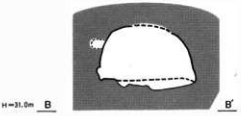
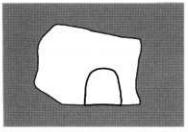
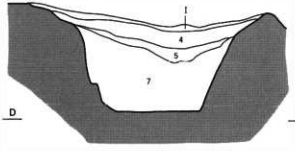


図23　６号横穴墓　平面図・土層断面図(1)

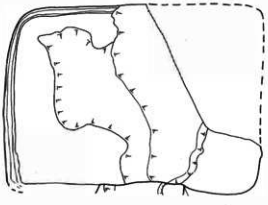






土層注記　A－A' に同じ

0　1/100　5m



0　1/40　2m

図24　6号横穴墓　土層断面図(2)・玄室平面図

２号副室　羨道部西壁面の玄門部近くに最大高39㎝・幅21㎝・奥行55㎝の副室が横から掘り込まれている。

３号副室　羨道部北東角に最大高100㎝・幅103㎝・奥行150㎝以上の大きな横穴が掘り込まれている。入口付近の床面には木炭片と赤く焼けた砂が薄く堆積していた。天井部が崩落の恐れがあるため、これ以上奥に掘り進むことができなかった。

４号副室　羨道部東壁面に奥行250㎝・幅40㎝・最大高170㎝の深い溝状の穴が掘り込まれていた。覆土の上層から羽口が２点並んで出土した。周辺からは製鉄炉や鉄滓・砂鉄・木炭等の製鉄に関連する遺物は出土しておらず、別の場所からこの穴に投げ込まれたものと考えられる。

５号副室　羨道部東壁面の４号副室の南側に奥行９５㎝・幅７０㎝・最大高４０㎝の穴が掘り込まれている。

出土遺物　土師器杯１点（羨道部）・羽口２点（４号副室）

７号横穴墓（図25～26、写真96～109）

保存状況　羨道部は厚さ100㎝の覆土に覆われていたが、玄門部はほぼ全体が開口していた。これは、第２次大戦中に地権者が防空壕に利用したために、入口に板戸をはめるために玄門の上部前面が四角く削られている。玄室内も本来の堆積土が取り除かれ、その後に堆積したヘドロがたまっていた。このため、地権者及び付近の一部住民には横穴の存在は知られていた。

玄　　室　床面は奥行き230㎝・幅203㎝・平面形はほぼ方形である。床面の四周と奥壁から玄門部に向かって幅６㎝・深さ２～５㎝・断面形U字形の丁寧なつくりの排水溝が掘り込まれており、玄門部床面の縦16㎝・横34㎝・深さ７㎝の長方形の排水升に連結している。壁はほぼ垂直に立ち上がり、奥壁と側壁の間の区画が明確である。壁面は他の横穴墓に比べ、平面的に作られている。床面から天井部までの高さは122㎝、天井部の形態はドーム形である。

玄 門 部　防空壕に使用された際に上部が広げられており、現状で縦172㎝・幅150㎝。形状はアーチ形である。玄門部入口付近には長さ30～40㎝の石を積み重ねて閉塞していたが、上部の石積みは破壊されて、玄門部から羨道部にかけて閉塞石が散乱している。底面は玄門部から羨道部に向かって緩やかに傾斜している。

羨 道 部　長さ約800㎝（南側は未掘のため、地表面の地形から推定）・幅220㎝。玄門部の排水升から続く排水溝が、羨道部左右側面の壁に沿って直線的に非常に丁寧に掘り込まれている。

出土遺物　須恵器甕細片（羨道部）

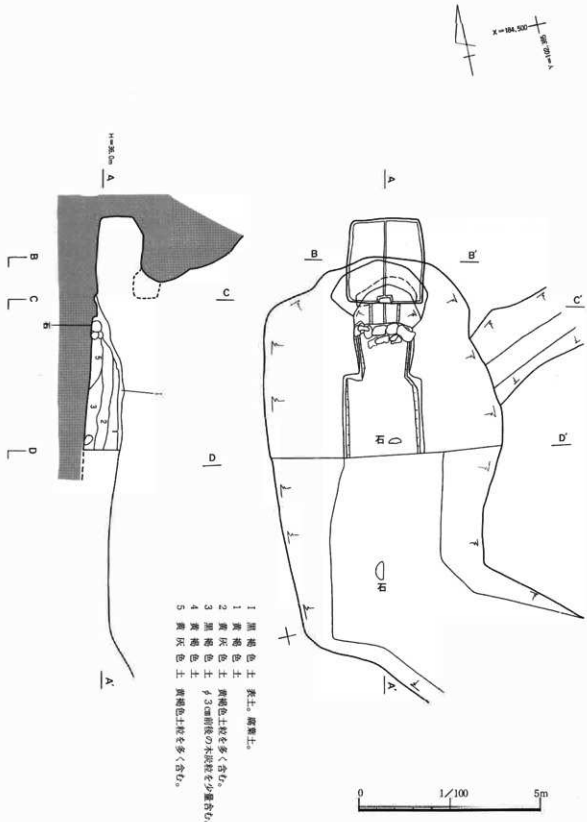


図25　7号横穴墓　平面図・土層断面図(1)

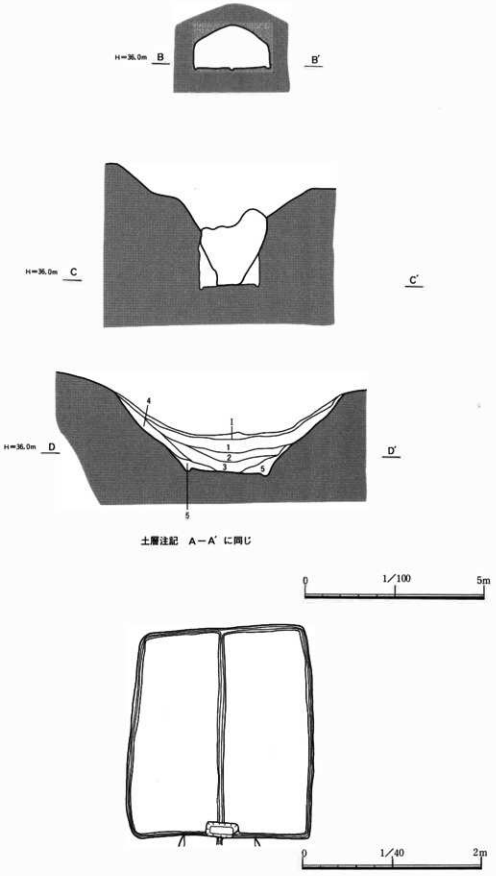


図26　7号横穴墓　土層断面図(2)・玄室平面図

８号横穴墓（図27～30、写真110～125・143～144）

保存状況　玄門部付近は厚さ150㎝の覆土に覆われていたが、玄門部の上端は開口していた。このため、地権者及び付近の一部住民には横穴の存在は知られていた。

玄　　室　床面は奥行き248㎝・幅234㎝で、平面形は南東隅が鈍角だがほぼ方形である。玄門部付近には縦170㎝・横80㎝・深さ２～４㎝の長方形の窪みを掘り込むことによって壁沿いにコの字形の棺床を作り出している。排水溝は幅10～16㎝・深さ５～12㎝・断面形はＵ字形で、床面の南西壁・西壁・北壁沿いを巡るが、東壁沿いでは途中から床面中央の窪みに向かい、さらに窪みの東壁に沿って玄門部に続いている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁面の上端が横穴を掘り込んだ岩盤の砂層にあたり、10㎝程内側にえぐって壁面と天井部の区画をしている形になっている。床面から天井部までの高さは133㎝・天井部の形態はドーム形である。

玄 門 部　左右の袖を削って広げられているが、現状で高さ108㎝・床面幅77㎝・最大幅134㎝を測る。玄室から続く排水溝は幅14㎝・深さ６㎝である。

羨 道 部　羨道部の中央に最大幅24㎝・深さ９㎝の排水溝を１条掘っているが、途中で長さ30㎝の岩を並べてせき止め、向きを変えて北側の壁沿いに排水溝を掘りなおしている。

出土遺物　石棒（玄門部覆土上層）文久永宝６枚（玄室床面直上１・羨道部覆土上層５）寛永通宝１枚（玄室床面直上）

備　　考　天井部には焚火による真っ黒で光沢のある油煙が大きく付着していた。また、床面直上から文久永宝・寛永通宝が出土しており、その上の堆積土に木炭粒が多く含まれていることから、近世に人が入り込んで床面の堆積土をさらい、焚火をして生活をしていたか、博打穴として使用されていたと考えられる。

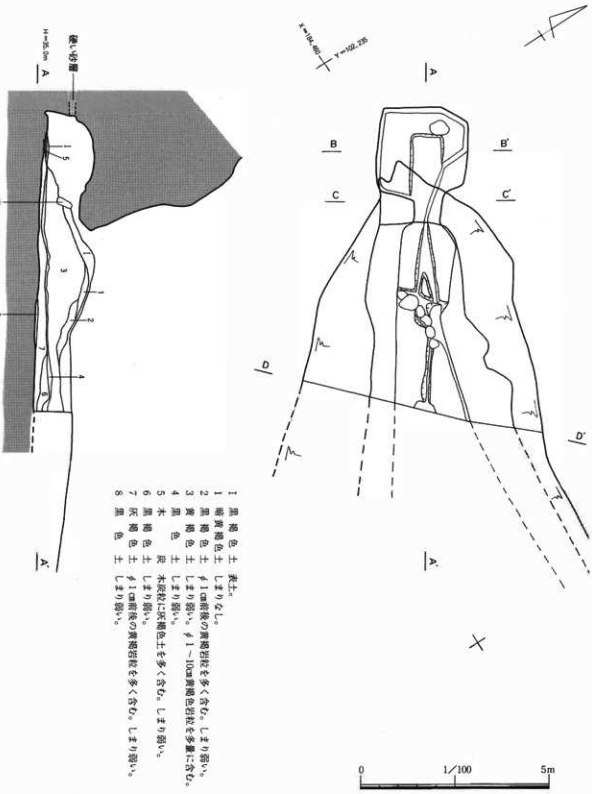
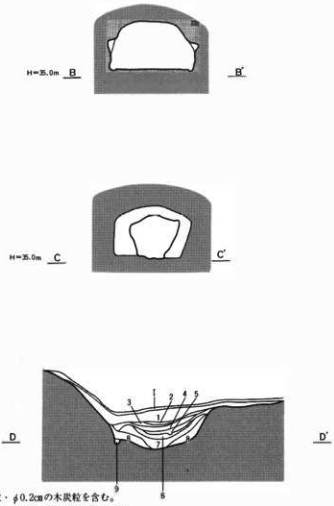


図27　8号横穴墓　平面図・土層断面図(1)



I　黒　色　土　表土。
1　暗黄褐色土　φ1cmの黄褐岩粒・φ0.2cmの木炭粒を含む。
2　黒　色　土　φ1cmの黄褐岩粒・φ0.2cmの木炭粒を多く含む。
3　黄　褐　色　土　φ1cmの黄褐岩粒・φ0.2cmの木炭粒を含む。
4　黒　褐　色　土　φ1cmの黄褐岩粒・φ0.2cmの木炭粒を含む。
5　黄　褐　色　土　φ1cmの黄褐岩粒　φ0.2cmの木炭粒を含む。
6　黒　色　土　φ1cmの黄褐岩粒・φ0.2cmの木炭粒を含む。
7　黒　褐　色　土　φ1cmの黄褐岩粒・φ0.2cmの木炭粒を含む。
8　黄　灰　色　土　黄褐色岩粒と灰色岩粒の混合土。
9　暗　灰　色　土　羨道部斜面沿いの排水溝覆土。

図28　8号横穴墓　土層断面図(1)・玄室平面図

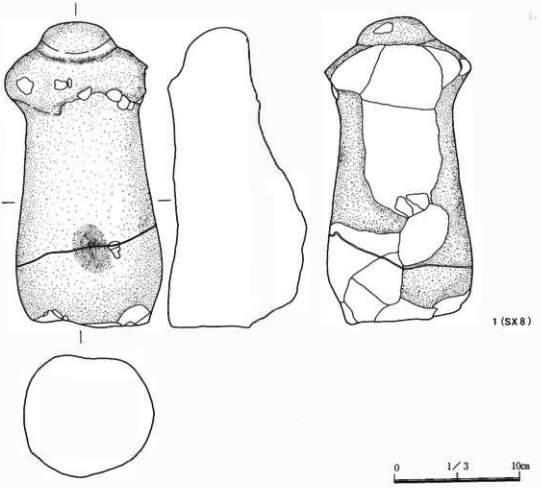


図29　8号横穴墓出土遺物実測図

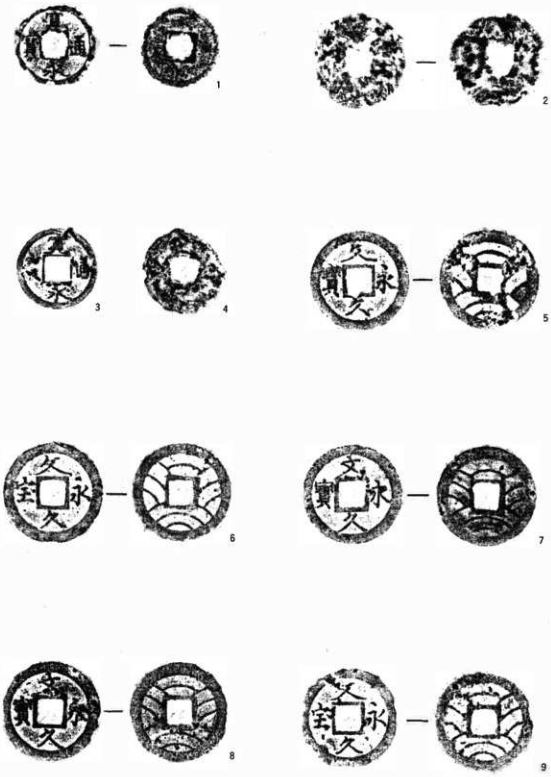


図30　8号横穴墓出土遺物(古銭)拓影図1／1

表１　北山横穴墓群出土土器観察表

挿図番号	出土遺構	種別	器種	色調		法量	調整
						口径／器高／底径	
図12－1	SX1表道	須恵器	甕	10YR5／1	褐灰	厚さ1.1	内面：青海波文タタキ　外面：平行タタキ後カキ目
図12－2	SX1表道	須恵器	甕	N3／	暗灰	厚さ1.1	内面：指頭痕，ヘラ削り　外面：平行タタキ
図12－3	SX1表道	須恵器	甕	N3／	暗灰	厚さ1.0	内面：指頭痕，ヘラ削り　外面：平行タタキ
図12－4	SX2玄室	土師器	壺	5YR5／4	にぶい赤褐	12.4／20.4／6.8	内面：ヨコナデ，ヘラナデ，指ナデ 外面：ヨコナデ，ヘラナデ，ヘラ削り　底部：木葉痕
図12－5	SX2玄室	須恵器	甕	N6／	灰	厚さ0.9	内面：指頭痕，ヘラ削り　外面：平行タタキ
図12－6	SX3表道	土師器	杯？	5YR6／6	橙	－／(1.9)／－	内面：底部ヘラナデ　外面：底部ヘラナデ
図12－7	SX3表道	須恵器	提瓶	N7／	灰白	8.4／21.8／－	外面：ロクロナデ　胴部片面カキ目、回転ヘラ削り
図20－1	SX4玄門	土師器	鉢	10YR7／2	にぶい黄橙	12.4／8.7／6.2	内面：口～底部ヘラナデ，黒色処理 外面：口縁部ヨコナデ　体～底部ナデか？
図20－3	SX4玄門	須恵器	提瓶	N4／	灰	9.0／29.4／－	外面：口～頸部ロクロナデ，櫛描波状文 胴部ロクロナデ，ナデ，ヘラ削り
図20－4	SX4玄門	土師器	杯	10YR7／4	にぶい黄橙	15.8／4.6／－	内面：口～底部ミガキ，黒色処理 外面：口縁部ヨコナデ，体～底部ヘラ削り

表２　北山横穴墓群出土石製品観察表

挿図番号	出土遺構	器種	色調		法量
					口径／器高／底径
図20－2	SX4玄門	紡錘車	10YR5／3	にぶい黄褐	上径2.8下径3.6高さ2.2
図29－1	SX8玄門	石棒	10YR6／2	灰黄褐	最大幅11.6高さ24.3

表３　北山横穴墓群出土羽口観察表

挿図番号	出土遺構	先端部		吸気部		最大長	調整	色調		備考
		内径	外径	内径	外径					
図20－5	SX６・４号副室	3.1	－	－	－	17.3	外面：ヘラナデ	10YR7／4	にぶい黄橙	
図20－6	SX６・４号副室	－	－	5.8	8.0	19.1	外面：ヘラナデ	10YR7／4	にぶい黄橙	通風管

表４　北山横穴墓群出土古銭観察表

挿図番号	出土遺構	銭種	G	g	T	t	重量(g)	備考
図30－1	SX8玄室	寛永通宝	2.10	0.65	1.40	1.00	1.90	
図30－2	SX8玄室	不明	2.50	0.60	－		2.60	遺存状態が悪いため
図30－3	SX8玄室	寛永通宝	2.10	0.70	1.10	0.50	1.50	
図30－4	SX8玄室	寛永通宝	2.20	0.70	1.30	0.90	0.30	
図30－5	SX8表土	文久永宝	2.60	0.65	1.00	0.30	2.60	
図30－6	SX8表土	文久永宝	2.60	0.70	1.00	0.50	3.00	
図30－7	SX8表土	文久永宝	2.70	0.70	1.00	0.65	2.55	
図30－8	SX8表土	文久永宝	2.65	0.65	0.95	0.45	2.60	
図30－9	SX8表土	文久永宝	2.60	0.60	0.95	0.35	2.60	

第2節　まとめ

（北山横穴墓群の立地）

これまでに原町市内で横穴墓（横穴古墳）の発掘調査が行われたのは、高林1号横穴墳（註1）と彩色壁画と金銅装大刀などの副葬品で知られる国指定史跡羽山横穴（第1号横穴）と第2号横穴（註2）の3基のみで、いずれも太田川北岸に分布する。一方、新田川北岸には市内下北高平から金沢にまたがる低位丘陵上に北山横穴墓群の西約1.4kmには京塚沢横穴墓群・西約1.3kmに新山前横穴墓群・東約1.4kmに町池横穴墓が分布するが、今回調査を行った北山横穴墓群はこれまで周知されていなかった遺跡で、新田川流域の横穴墓としては初の調査例となる。

（北山横穴墓群の構成）

相双地方の横穴墓群には数十基の横穴群を主群に、周辺に2～5基程度でまとまった支群と考えられる横穴群が多数所在している。この傾向は原町市内の羽山横穴墓群などでも同様である。

北山横穴墓群は8基の横穴墓で構成されており、それらは大きく3つの地点に分けられる。1号横穴墓と2～6号横穴墓は同一の尾根の南斜面に小さな群をなし、7号横穴墓はその北側の尾根の南東斜面に位置する。8号横穴墓は1号～6号横穴墓からやや離れ、西約200mの丘陵南西端近くの南斜面に位置している。

2～6号横穴墓の玄室の床面は標高約31mとほぼ同じレベルに隣接して築かれており、時期的にも連続した同族集団の墳墓と考えられる。なお、2～6号横穴墓のグループの中でも隣接する2号横穴墓と3号横穴墓は規模・形態・主軸方向が類似しており、先行して築造されたどちらかの横穴墓を強く意識して築かれたと考えられる。また、この尾根上には現在までに小規模な前方後円墳1基と小円墳3基が確認されている北山古墳群が立地する。北山古墳群は礫槨若しくは横穴式石室の可能性が考えられ、北山横穴墓群に先行して築かれたと考えられる。北山横穴墓群は北山古墳群と同一の丘陵南斜面に築造されており、丘陵上の北山古墳を意識して築造場所が選ばれた可能性が考えれえる。

（横穴墓の形態）

それぞれの玄室の形態は、床面の平面形が方形・隅丸方形・横長の長方形と比較的多様である。天井部の形状は崩落のため確認できなかったものもあったが、確認できたものはドーム形で、壁面はいずれも玄室の中心に向かってやや傾斜している。

羨道部の規模はほとんどが長さ約700～1300cm・幅約80～280cmで、相馬・双葉地方の他の横穴墓に比して羨道部が長く深いのが特徴である。

全体の形態がやや特異なのは、5号横穴墓で羨道部の南端に仕切り状の溝があり、そこから外（南）側は急に狭くなっており、他の横穴墓の羨道部の先端がハの字状に緩やかに広がっていくのとは対照的である。また、羨道部の断面形も他の横穴墓では上方に向かって緩やかに開いていくのに対し、上部が閉じていた可能性があり、羨道部全体から天井部から崩落したと思われる岩が堆積していた。南端の溝から北端の玄門部の可能性がある壁面まで複室構造の前室があり、今回検出できなかった玄門部の奥に後室があった可能性も考えられる。

（出土遺物と遺構の年代）

年代の比定できる資料としては、以下の資料があげられる。

2号横穴墓の玄室内から完形の土師器甕が出土しており、東北地方土師器編年では古墳時代後期の栗囲式に相当するものと考えられる。

3号横穴墓の羨道部と4号横穴墓の羨道部からは須恵器提瓶が完形で出土しており、いずれも把手は形骸化してボタン状のつまみになっている。これらの須恵器提瓶は、相馬市善光寺遺跡（窯跡）から出土した7世紀前半といわれる善光寺Ⅰ式の須恵器提瓶に相当すると考えられる。6号横穴墓の羨道部から出土した土師器杯は外面に段を有し内面は黒色処理されている。この土師器は古墳時代後期の栗囲式に相当するものと考えられる。これらの遺物は玄門の前から前庭部に供献された遺物と考えられることから、3・4・6号横穴墓の築造年代は古墳時代終末期、栗囲式期の終わり頃と判断され、6世紀末から7世紀前半と考えられる（註3）。また、隣接して築造された2～6号横穴墓の羨道部の覆土の切りあい関係をみると、2号横穴墓の後に3号横穴墓が、5号横穴墓の後に4号横穴墓が築かれたと考えられる。3号横穴墓と4号横穴墓、5号横穴墓と6号横穴墓については切りあいが不明なため、新旧関係は不明である。

こうしたことから、北山横穴墓群における8基の横穴墓の築造年代は総じて7世紀初頭の築造と考えられる。

（新田川下流域の古墳の変遷と分布）

このように、北山横穴墓群は古墳時代終末期という非常に短い時間の中で、連続的に横穴墓が築造されたと考えられる。ところで、新田川北岸の沖積地に位置する新井前遺跡では4世紀初めの低い墳丘と全周しない周溝を持っていたと考えられる2基の方墳が検出されており、新田川を挟んだ対岸には4世紀から6世紀にかけて築造された桜井古墳群があり、河岸段丘の縁辺に37基の墳墓が確認されている。このように新田川下流域では古墳時代の初めに北岸の微高地に方形規格の古墳が築かれ、古墳時代前期には南岸の河岸段丘縁辺に、やはり方形規格の上渋佐7号墳や桜井古墳が築かれ、その後も桜井古墳の周囲に古墳群が形成されていく。この桜井古墳群は古墳時代中期の古墳は希薄であるが、前方後円墳も出現し、古墳時代後期になると円形規格の小円墳が多数築かれるようになり、破壊されたものや未確認のものも含めると100基近く存在したと考えられる。しかし、その後は古墳築造の立地を新田川北岸の丘陵に移し、尾根上に小規模な礫郭もしくは横穴式石室を持つと考えられる北山古墳群を形成する。そして、古墳時代終末期にはその尾根の南斜面に横穴墓群を築いた後、古墳時代が終焉を迎えたと考えられる。このように新田川下流域では累々と古墳が築造されてきたが、南岸の河岸段丘縁辺の平地を選んだ古墳築造の意識と新田川北岸の丘陵部を選んだ理由は、生活域の違いか、時代的な墳墓の立地に対する意識の違いによるものかについては今後の課題としたい。

註

註1　1965　竹島國基　他　『原町市高林古墳群調査報告書』　原町市教育委員会

註2　1974　渡辺一雄　他　『羽山装飾横穴発掘調査概報』　原町市教育委員会

註3　高平孝太郎氏のご教示による。

註4　2000　荒　淑人　　「荷渡古墳群」　原町市教育委員会

参考文献

渡部晴雄・西　徹雄	1969	「清戸迫横穴群」『福島県史』第1巻
菅原文也・大竹憲治	1980	『鎌塚横穴墓群報告』　鹿島町教育委員会
大竹憲治・山田　廣	1984．3	『標葉における横穴墓群の研究』　双葉町教育委員会
双葉町史編さん委員会	1984	『双葉町史』第二巻　原始・古代・中世資料　双葉町
渡邊泰伸	1991．5	「須恵器の編年　東北」『古墳時代の研究』第6巻　雄山閣
玉川一郎　他	1995．3	『中谷地横穴墓群発掘調査報告書』　鹿島町教育委員会

1　北山横穴墓群　航空写真

2　1号横穴墓　調査前（南から）

3　1号横穴墓　伐木・刈払後（南から）

4　1号横穴墓　実測作業（南から）

5　1号横穴墓　玄門部（南から）

6　1号横穴墓　玄門部左側の副室（南から）

7　1号横穴墓　羨道部土層断面（北から）

8　1号横穴墓　玄室（南から）

9　1号横穴墓　玄室床面（南から）

10　1号横穴墓　玄室（南から）

11　1号横穴墓　拓本作業（南から）

12　1号横穴墓　奥壁の線刻（南から）

13　1号横穴墓　西床面（南東から）

14　1号横穴墓　東床面（南西から）

15　1号横穴墓　西側壁、後世の小穴（東から）

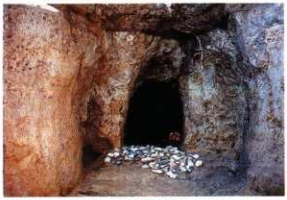
16　1号横穴墓　天井部、工具痕（南から）

17　2号横穴墓　伐木・刈払後（南から）

18　2号横穴墓　羨道部土層断面（南から）

19　2号横穴墓　羨道部土層断面（北から）

20　2号横穴墓　全景（南から）



21　2号横穴墓　玄門部（南から）

22　2号横穴墓　玄室開口直後（南東から）

23　2号横穴墓　土師器甕出土状況（西から）

24　2号横穴墓　玄室精査後（南から）

25　2号横穴墓　奥壁（南から）

26　2号横穴墓　剥落した天井部（南から）

27　2号横穴墓　玄室（北から）

28　2号横穴墓　西床面（南から）

29　2号横穴墓　西側壁(左)と奥壁(右)の工具痕（南東から）

30　2号横穴墓（右)と3号横穴墓(左)の間の副室（西から）

31　2号横穴墓と3号横穴墓の間の副室（南から）

32　3号横穴墓　伐木・刈払作業（南東から）

33　3号横穴墓　伐木・刈払後（南から）

34　3号横穴墓　羨道部土層断面（南から）

35　3号横穴墓　横瓶出土状況（南から）

36　3号横穴墓　副室　木炭出土状況（南から）

37　3号横穴墓　焼土出土状況（南西から）

38　3号横穴墓　焼土出土状況（南西から）

39　3号横穴墓　全景（南東から）

40　3号横穴墓　羨道部（南から）

41　3号横穴墓　玄門部付近の排水溝（南から）

42　3号横穴墓　玄室（南から）

43　3号横穴墓　玄室中央と奥壁下の排水溝（南から）

44　3号横穴墓　玄室(下)・玄門部(上)（北から）

45　3号横穴墓　玄室(下)・羨道部(上)（北から）

46　3号横穴墓　玄門部付近の排水溝（北から）

47　3号横穴墓　羨道部土層断面（北から）

48　4号横穴墓　伐木・刈払後（南東から）

49　4号横穴墓　岩盤検出状況（南東から）

50　4号横穴墓　玄門部検出状況（南東から）

51　4号横穴墓　全景（南西から）

52　4号横穴墓　副室（南西から）

53　4号横穴墓　副室（南西から）

54　4号横穴墓　閉塞石と横瓶出土状況（南西から）

55　4号横穴墓　土師器甕出土状況（南東から）

56　4号横穴墓　紡垂車出土状況（南東から）

57　4号横穴墓　羨道部土層断面（北東から）

58　4号横穴墓　床面精査作業（南東から）

59　4号横穴墓　玄室（南西から）

60　4号横穴墓　玄室床面（南西から）

61　4号横穴墓　玄門部付近の骨粉・赤色顔料出土状況(南西から)

62　4号横穴墓　東側壁付近の骨粉出土状況（北西から）

63　4号横穴墓　玄門部付近の骨粉・赤色顔料出土状況(南西から)

64　5号横穴墓　岩盤検出状況（南西から）

65　5号横穴墓　横穴直上の硬質褐色砂岩層

66　5号横穴墓　羨道部内岩盤崩落状況（南東から）

67　5号横穴墓　羨道部土層断面（北東から）

68　4号横穴墓(左)と5号横穴墓(右)の間の土層断面（北東から）

69　5号横穴墓　羨道部（北東から）

70　5号横穴墓　羨道部入口の溝（南西から）

71　5号横穴墓　羨道部入口の溝（東から）

72　5号横穴墓　羨道部（北東から）

73　5号横穴墓　羨道部入口付近（北東から）

74　5号横穴墓　全景（南西から）

75　5号横穴墓　玄門部（南西から）

76　5号横穴墓　羨道部西壁（南から）

77　5号横穴墓　羨道部東壁（西から）

78　5号横穴墓(右)と6号横穴墓(左)（南から）

79　床面付近の堆積土、フルイがけ作業

80　6号横穴墓　伐木・刈払作業（北東から）

81　6号横穴墓　伐木・刈払後（南西から）

82　6号横穴墓　岩盤検出状況（南西から）

83　6号横穴墓　羨道部土層断面（北西から）

84　6号横穴墓　羨道部土層断面（北東から）

85　6号横穴墓　玄門部（南西から）

86　6号横穴墓　玄門部（南西から）

87　6号横穴墓　全景（南から）

88　6号横穴墓　玄門部右側の副室と焼土出土状況（南西から）

89　6号横穴墓　羨道部東壁、壁面の凹凸（西から）

90　6号横穴墓　羽口出土状況（西から）

91　6号横穴墓　土師器杯出土状況（西から）

92　6号横穴墓　玄室、崩落土除去作業（南西から）

93　6号横穴墓　玄門部から玄室（南西から）

94　6号横穴墓　玄室、西側壁の副室（蓋あり）（南東から）

95　6号横穴墓　玄室、西側壁の副室（蓋除去後）（南東から）

96　7号横穴墓　調査前（南から）

97　7号横穴墓　玄門部検出状況（南から）

98　7号横穴墓　羨道部土層断面（西から）

99　6号横穴墓　羨道部土層断面（北から）

100　7号横穴墓　玄門部

101　7号横穴墓　全景（南東から）

102　7号横穴墓　玄門部から羨道部（北から）

103　7号横穴墓　玄門部（西から）

104　7号横穴墓　玄門部（東から）

105　7号横穴墓　玄門部と閉塞石出土状況（南から）

106　7号横穴墓　玄室

107　7号横穴墓　玄室（南から）

108　7号横穴墓　玄室南東隅（北西から）

109　7号横穴墓　玄門部付近の排水溝（南から）

110　8号横穴墓　伐採・刈払後（南東から）

111　8号横穴墓　玄門部検出状況（南東から）

112　8号横穴墓　羨道部土層断面（南から）

113　8号横穴墓　古銭出土状況（南東から）

114　8号横穴墓　石棒出土状況（南東から）

115　8号横穴墓　玄門部（南東から）

116　8号横穴墓　全景（南東から）

117　8号横穴墓　玄室調査前（南東から）

118　8号横穴墓　玄室床面調査前（東から）

119　8号横穴墓　精査作業（南東から）

120　8号横穴墓　古銭(銭種不明鉄銭)出土状況（南から）

121　8号横穴墓　玄室内堆積土土層断面（南から）

122　8号横穴墓　南西側壁（東から）

123　8号横穴墓　奥壁（南東から）

124　8号横穴墓　北東側壁（南から）

125　8号横穴墓　羨道部土層断面（北西から）

126　2・3号横穴墓（東から）

127　3・4号横穴墓（東から）

128　4・5号横穴墓（南から）

129　5・6号横穴墓（南西から）

130　8号横穴墓西側の洞穴　伐採・刈払後（南から）

131　8号横穴墓西側の洞穴　検出作業（南東から）

132　8号横穴墓西側の洞穴　入口検出作業（南西から）

133　8号横穴墓西側の洞穴　内部（南から）

134　1号横穴墓出土　須恵器甕

135　2号横穴墓出土　土師器甕

136　3号横穴墓出土　鉄製釘

137　3号横穴墓出土　須恵器横瓶

138　4号横穴墓出土　須恵器横瓶

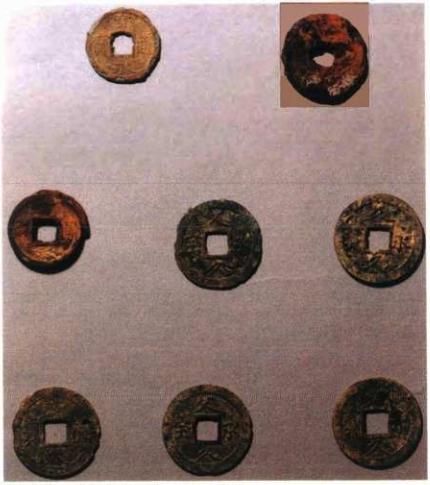
139　4号横穴墓出土　土師器甕

140　4号横穴墓出土　石製紡垂車

141　6号横穴墓出土　土師器杯

142　6号横穴墓出土　羽口

143　8号横穴墓出土　石棒



144　8号横穴墓出土　古銭（文久永宝・寛永通宝）

報 告 書 抄 録

ふりがな	きたやまよこあなぼぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	北山横穴墓群発掘調査報告書
副 書 名	
シリーズ名	原町市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第30集
編著者名	二本松文雄
編集機関	福島県原町市教育委員会文化財課
所 在 地	〒975－0012　福島県原町市三島町二丁目45番地　TEL　0244－24－5284
発行年月日	西暦2003(平成15) 年3月28日

所収遺跡	所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
北　山 横穴墓群	原町市下北高 平字北山	07206 00301	37° 39′ 20″	140° 59′ 40″	20010709 ～ 20011015	500	工業団地造成

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特記事項
北　山 横穴墓群	横　穴	古　墳	横穴墓8基	土師器・須恵器・羽口・紡錘車・棒状鉄製品	

原町市埋蔵文化財調査報告書第30集

北山横穴墓群発掘調査報告書

平成15年3月28日　発行

発行　福島県原町市教育委員会
〒975－0012　福島県原町市本町二丁目27番地
TEL（0244）24－5284

印刷　株式会社鹿島印刷所
〒979－2335　福島県相馬郡鹿島町鹿島字町159番地
TEL（0244）46－5555

PRINTED WITH SOY INK

R100